

平成30年度仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査の 分析結果と改善方策について

今年4月に実施した「仙台市標準学力検査^{※1}」と「仙台市生活・学習状況調査^{※2}」の結果概要を6月に発表しましたが、このたび「仙台市確かな学力研修委員会^{※3}」による主な分析結果とそれを基にした指導改善の方策がまとまりました。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立てるとともに、併せて、年度末には詳細版を「学力向上に関する調査・実践報告書」としてまとめていきます。

1 仙台市標準学力検査の主な分析結果と指導改善の方策

- (1) 分析結果から、仙台市の子供たちの学力の傾向をまとめました（資料1）。
- (2) 目標値を特に上回った部分を成果、下回った部分を課題としてまとめました（資料2）。
- (3) 指導改善の方策について

目標値を下回った内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました（資料3）。

- (4) 今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での授業改善等の取組に生かします。また、小学校4教科、中学校5教科において指導改善の方策を踏まえた提案授業を11月より、公開により実施します。

2 仙台市生活・学習状況調査の主な分析結果と指導改善の方策（資料4）

- (1) 分析結果について

- ① 「難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている」児童生徒が小学校6年生から中学校3年生で増えています。
- ② 「自分には、良いところがあると思う」児童生徒や、「みんなと意見が違っていても、自分の意見を話す」児童生徒が、小学校6年生から中学校3年生で増えています。
- ③ 携帯・スマホの使い方の約束について、家の人と話し合っている児童生徒が増加している一方で、「勉強中にスマホを使用」している児童生徒が増加しています。

- (2) 指導改善の方策について

一定の成果はあったものの、さらに改善を必要とする内容や課題のあったものを中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。

- (3) 今後の取組について

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取組に生かします。また、教育委員会でも広報に努めるとともに、東北大学と共同研究「学習意欲の科学的に関するプロジェクト^{※4}」でさらに分析を進めます。

※1 仙台市標準学力検査

児童生徒の学力の現状や課題を把握するため、小学校3年生以上を対象に、前学年で学習した内容（小学校3年生：国語、算数 小学校4年生～中学校1年生：国語、社会、算数・数学、理科 中学校2年生、3年生：国語、社会、数学、理科、英語）について、毎年4月に検査しています。

※2 仙台市生活・学習状況調査

児童生徒の生活習慣や学習状況を把握・分析するため、小学校2年生以上を対象に「学習意欲」や「道徳心・挑戦・夢」なども加えて、標準学力検査と同時に調査しています。

※3 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭、指導主事を委員とし、仙台市標準学力検査及び仙台市生活・学習状況調査結果の分析及び授業改善の方策の検討を行っています。

※4 学習意欲の科学研究に関するプロジェクト

仙台市教育委員会が事務局となり、東北大学と学校関係者によって、学校現場での経験や実例、仙台市生活・学習状況調査のデータなどを基に、脳科学や認知心理学の観点から学習意欲について科学的に分析し、学習意欲に関した提言を行ったり、教育施策へ生かしたりしています。

仙台市の子供たちの学力の傾向

(分析結果の概要から見えてくる各教科の特徴的な点をまとめたもの)

平成30年度仙台市標準学力検査結果の「観点別、内容別、問題別の平均正答率」と「目標値」との比較から見えてくる、仙台市の子供たちの学力の傾向をまとめました。

小 学 校	国語	○「読むこと」の領域のうち、物語や説明文の内容を読み取ることに於いて、概ね良好な結果であった。 ▼「書く能力」の観点のうち、事柄の順序に沿って文章を考えること、条件に合わせた文章を書くこと、適切な情報を選抜して文章を書くことなどに於いて課題が見られた。
	社会	○「買い物調べ」「安全なくらし」「わたしたちの生活と情報」の内容に於いて、目標値を上回る傾向が見られた。また、応用力に於いて目標値より高い傾向が見られた。 ▼「地図の読み取り」や「農家・工場の仕事」「先人の働き」「県の様子」「工業生産」の内容に関する設問に於ける「観察・資料活用」の観点に於いて課題が見られた。
	算数	○基本的な四則計算の技能が概ね定着している状況が見られた(H28, H29と同様)。 ▼「図形」や「割合」に関する設問や、4年生の「単位」、5年生の「面積」など量感を伴いながら考えることに於いて、課題が見られた。
	理科	○4年生は「身近なしぜんのかんさつ」、5年生は「動物のからだのつくりと運動」、 「物のあたままり方」、6年生は「人のたんじょう」の内容に関する設問に於いて、それぞれ目標値より高い傾向が見られた。 ▼実験結果の推測、対照実験に於ける条件設定など「科学的な思考・表現」の観点に於いて課題が見られた。また、実生活に於ける体験と結び付けて考えることに於いて課題が見られた。
中 学 校	国語	○「文法・語句に関する知識」の内容に関する問題に於いて、目標値より高い傾向が見られた。また、応用力に於いて目標値より高い傾向が見られた。 ▼自分の考えを論理的にまとめることや、文学作品に於いて情景描写や行動描写等から心情理解をすることに於いて課題が見られた。
	社会	○1年生「鎌倉時代、室町時代」、3年生「日本の諸地域」の内容に関する設問に於いて目標値より高い傾向が見られた。また、応用力に於いて、目標値より高い傾向が見られた。 ▼地図の活用、読み取りなどの「資料活用」の観点に関する設問、複数の資料を関連付けてまとめることに於いて課題が見られた。
	数学	○「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の観点に於いて概ね定着している状況が見られた。 ▼「場合の数」の図や表に表して考えることや、「比例・反比例」の具体的な事象とグラフを関連付けて情報を読み取ることや、「証明」の与えられた条件から証明することに於いて課題が見られた。
	理科	○1年生は「物質・エネルギー」領域、2年生は「粒子」「生命」「地球」領域、3年生は「生命」領域に関する内容に於いて概ね定着している傾向が見られた。 ▼実生活の体験を活用しながら学習する内容等に於いて、「観察・実験の技能」の観点に課題が見られた。
	英語	○「外国語理解の能力」の観点は概ね定着しており、リスニング(内容理解)の内容では、目標値より高い傾向が見られた。 ○「3文字以上の英作文」に於いて、目標値より高い傾向が見られた(H29と同様)。 ▼「語彙の理解」、「ねらいや流れに沿った会話」、「場面に応じた英作文」の内容に於いて課題が見られた。

平成30年度仙台市標準学力検査分析結果の概要
(分析結果と指導改善の方策を集約したもの)

分析の結果、目標値を特に上回った部分を成果、下回った部分を課題としてまとめました。
(詳細は資料3を参照)

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策(概要)
小学校3年	国語	① 話の内容を聞き取ること。	① 物語の内容を正確に捉え、想像を豊かに読み取ること。	⇒ 物語の内容を正確に捉えられるように、効果的に音読を取り入れた指導を行う。
		② 説明文の内容を読み取ること。	② 与えられた条件に合わせた文章を書くこと。	⇒ 条件を提示し、事柄の順序を意識しながら、条件に合わせた文章を書く指導を行う。
	算数	① 「長さ・かさ」に関すること。	① もとの大きさの4分の1の大きさの意味を理解すること。	⇒ 図形を均等に分割し、その一部を塗りつぶした図と塗りつぶした図を表す分数とを関連付ける活動を通して、分数の意味について確認する指導を行う。
		② 「時こくと時間」に関すること。	② 正方形の面をもつ直方体を作るときに必要な面の形と数を理解すること。	⇒ 様々な直方体を作ったり、観察したりすることを通して、直方体の特徴を体験的に理解できるような指導を行う。
小学校4年	国語	① 漢字を読むこと。	① 主語・述語の関係を理解すること。	⇒ 2年生での学習を想起させ、「主語・述語」の確実な理解を促した上で、修飾語を含んだ文の指導を行う。
			② 問いの文が書かれている段落を見付けながら文章を読むこと。	⇒ 「問い」や「段落」の意味、見付け方を繰り返し指導し、意識させる指導を行う。
	社会	① 「買い物調べ」に関すること。	① 絵地図からその工夫を正しく読み取ること。	⇒ 絵地図のかき方や工夫を考えさせるとともに、何について調べるのか、どのようにまとめさせるのかを意識した指導を行う。
			② 資料から農家の仕事の進め方や作業の工夫を正しく読み取ること。	⇒ 見学や調査の際、仕事の進め方や作業の工夫に着目させ、その目的と関連付けて農家の仕事を考えるような指導を行う。
	算数	① 二等辺三角形を作図すること。	① 分数の意味や表し方を理解すること。	⇒ 作業的・体験的な活動など、算数的活動を通して、実感を伴いながら、分数の意味や表し方を理解できるような指導を行う。
		② □を使った式を理解すること。	② 身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使うこと。	⇒ 身近なものの重さを推察しながら測定活動を繰り返すことで、量感を伴いながら適切な単位を選択できるような指導を行う。
	理科	① 身近な自然を観察すること。	① 絶縁シートの材料に適切なものについて理解すること。	⇒ 児童が実験で使用する回路のスイッチ部分に布等で作ったシートをはさみ、豆電球の明かりがつかどうか確かめることを通して、絶縁シートとして適切な物について理解を深める指導を行う。
		② 「こん虫の育ち方」について理解すること。	② 分けられた磁石にもN極、S極があることを理解すること。	⇒ 磁石は小さい磁石の集合であることをイメージできるような実験を通して、磁石の性質についての理解を深める指導を行う。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
小学校5年	国語	① 物語の内容を読み取ること。	① 漢字を書くこと。	⇒ 漢字練習の方法を工夫したり、辞書を活用したりすることを意識し、日常的に漢字に慣れ親しませる指導を行う。
		② 説明文の内容を読み取ること。		⇒ 資料から読み取れることを視覚化したり、資料同士を関連付けたりして、情報を読み取る力や、読み取った情報を基にして文章をまとめる力を身に付けさせる指導を行う。
		③ 漢字を読むこと。	② 資料から情報を取り出し、適切な言葉で表現すること。	
	社会	① 「くらしをささえる水」に関すること。	① 「ごみ処理と利用」に関して資料の内容を読み取り、複数の資料を関連付けて考え、活用すること。	⇒ 人口は増えているのにごみの量が増えていないことに疑問を持たせ、理由についての予想を立てながら、関係する資料を読み取ることができる指導を行う。
			② 県全体の地形の特徴について、地図から読み取ること。	⇒ 方位や地形、土地利用の様子など様々な視点から地図の見方を指導したり、立体地図などを使いながら、地形図に慣れ親しませる活動を通して、適切に地形図を読み取ることができる指導を行う。
	算数	① 「計算のきまり・変わり方調べ」に関すること。	① 面積に関する単位換算の理解を深めること。	⇒ 単位換算をしてから面積を求める方法と面積を求めてから単位換算をする方法のどちらが適切かを判断させることを通して、合理的な計算方法を身に付けさせる指導を行う。
			② 直方体の面と辺の関係を正しく捉えること。	⇒ 「垂直・平行と四角形」において、辺と辺の交わり方や並び方について十分に理解させた上で、面にもつながる考えであることを気付かせるような指導を行う。
	理科	① 「物のあたたまり方」に関すること。	① 温度による空気、水、金属の変化量を正しく理解すること。	⇒ 空気や水と同様に、金属を湯せんしても体積の変化が見られないことを通して、空気や水に比べて、金属は体積の変化量が空気や水に比べて小さいことに気付かせる指導を行う。
		② 物に加わる力と体積の関係を理解すること。	② 空気中の水蒸気は、冷やしてとり出せることを理解すること。	⇒ 「水のすがたと温度」の学習と関連付けて、加熱蒸発によって生じた水蒸気についても、「水蒸気が冷えて水になる」現象を確かめさせる指導を行う。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
小学校6年	国語	① 話合いの内容を聞き取ること。	① 物語文における中心人物の心情を読み取ること。	➡ 中心人物の心情を場面ごとに丁寧に読み取ることや、物語の題名の意味を考えさせるなど、物語全体を捉えた読み取りの指導を行う。
		② 説明文の内容を読み取ること。	② 必要な情報を選別し読み取った情報を活用して文章にすること。	➡ 資料から読み取る観点を与えるなどして、正確に読み取らせことや、読み取ったことから必要なことを選んだり、関連付けたりする活動を通して、情報を活用しながら文章にまとめる指導を丁寧に行う。
	社会	① 日本の食料生産に関すること。	① 用語・語句の意味を正確に理解すること。	➡ 様々な漁業について、グラフを読み取らせたり、映像資料を視聴させたりするなど、漁業の名称と特徴を関連付けさせる指導を行う。
			② 資料を読み取り、キーワードを用いて文章で表現すること。	➡ 日本の工業について、資料を基に工場が集中する共通点を読み取ったり、工業生産と立地場所を関連付けたりすることを通して理解を深めさせ、キーワードを用いて自分の考えを書かせる指導を行う。
	算数	① 「面積と体積」に関すること。	① 偶数と奇数の性質を理解すること。	➡ 偶数と奇数の性質を理解した上で、奇数と偶数を様々な組み合わせで足した場合の結果と理由まで思考を広げ、数に対する理解を深める指導を行う。
			② 与えられた情報を読み取り、割合（基準量や比較量）を理解すること。	➡ 割合には基準量と比較量の二つの量の関係していることを理解できるようにし、グラフから割合を読み取り、基準量や比較量を求め、説明する学習を取り入れた指導を行う。
	理科	① 「ふりこのきまり」に関すること。	① 種子の発芽条件を調べるにあたり、適切な実験方法を判断すること。	➡ 対照実験を行う際に、調べる条件だけでなくそろえる条件についても確かめさせ、さらに、条件を統一させるために制御する必要があることを理解させた上で、実験させるようにする。
		② 「物のとけ方」に関すること。	② 平地あたりを流れる川の流れと堆積のはたらきについて理解すること。	➡ 水の流れが遅くなると堆積作用が大きくなることを実験で確認できるようにするため、土や砂がそれ以上移動しなくなり溜まっていく様子と、水は流れ続けている様子の両方を観察できるような指導を行う。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
中学校 1年	国語	① 「文法・語句に関する知識」に関すること。	① 複数の話し手がどの立場で意見を述べているのか理解すること。	➡ 意見や理由を正しく聞き取るためにメモの取り方を工夫することや、話し合いの際には、議題や観点を示し、それらを意識させる指導を行う。
		② 文学作品の内容を読み取ること。	② 読み取ったことを基に自分の考えをまとめること。	➡ いくつかの文章を読み比べて、自分が納得できる文章を選び、その理由を説明する際には、筆者の根拠の挙げ方等を参考にしながら自分の考えを論理的に書かせる指導を行う。
	社会	① 「縄文時代～平安時代」に関すること。	① 「富国強兵」に関する言葉とその関係性を理解すること。	➡ 富国強兵とそのための諸改革・諸政策との関係性が明らかになるよう、資料を基に具体的に調べさせる。また、学習した語句を活用して、自分の考えをまとめさせたり発表させたりする指導を行う。
		② 「鎌倉時代, 室町時代」に関すること。	② 国旗について理解すること。	➡ 国旗や国歌について、その国の成り立ちや国民の願いと深い関係があることを考えさせるとともに、日常生活において国歌が流れたり、国旗が掲げられていたりする場面を想起させ、関心を持たせながら国旗や国歌を意識させる指導を行う。
	数学	① 「整数の性質」（最大公約数, 最小公倍数）に関すること。	① 線対称な図形の性質を基に、対称な軸を見付けること。	➡ 図形を「切る」「折る」など実際の操作を通して、線対称な図形の性質を理解させる指導を行う。
		② 「比と比例・反比例」に関すること。	② 「場合の数」の組み合わせについて、整理して考えること。	➡ 図や表などに表して具体的に整理して調べていく中で、組み合わせに重なりができてくることに気付かせる。その上で、重複して数えたものを消したり、始めから重複するものを書かないようにしたりする方法などについて考えさせる指導を行う。
	理科	① 「電気の利用」に関すること。	① 物の燃え方について理解すること。	➡ ろうそくの燃焼によって酸素がすべて使われたわけではないということを、測定結果かとモデルから正しく捉えさせる指導を行う。
		② 「生物とかんきょう」について理解すること。	② 地層のでき方について理解すること。	➡ 地層の観察を行う際に、れき、砂、どろ、火山灰などが層を作っていることを実感させる指導を行う。堆積実験を行う際には、実際の地層と同様に層になっていく様子をはっきりと観察できるように、土を流し込む容器を工夫するようにする。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
中学校2年	国語	① 説明文の内容を読み取ること。	① 文学作品において、登場人物の行動、会話、情景描写に着目して心情を読み取ること。	➡ 登場人物の置かれた状況を踏まえて、会話や直接的な表現だけでなく、行動、情景描写にも目を向けて心情を丁寧に読み取る指導を行う。
		② 「文法・語句に関する事」に関する事。	② 文学作品において、文章の書かれ方に着目し、表現の特徴を捉えること。	➡ 時間や場所を表す言葉に注意させながら場面を捉えさせ、作品全体の構成や展開を考えさせる指導を行う。
		③ 話し合いの内容を聞き取ること。		
	社会	① 「世界各地の人々の生活と環境」について、資料から宗教を把握すること。	① 世界地図の特徴の理解を基に距離や緯度・経度を正確に読み取ること。	➡ 地図を球面で捉えさせた後に実際に地図を作成させる。次に各図法の特徴や利点、欠点を地球儀との比較を通して気付かせる。その上で、各図法の特徴に基づいた活用ができるような指導を行う。
		② 「飛鳥時代～平安時代」に関して、複数の資料を基に考察すること。	② 歴史の流れの理解を基に鎌倉時代の政治の動きを理解すること。	➡ 小学校での既習事項を確認した上で、「源氏が滅んだ後、北条氏の実権を握ったこと」「承久の乱」「執権政治の確立」について、その時代の特色と関連付けながら理解できるような指導を行う。
	数学	① 「平面図形」に関する事。	① 正負の大小関係を不等号を使って正確に表すこと。	➡ 数の表し方を統一して比較することを確実に押さえさせ、数直線を活用することで数の大小を視覚的に捉えさせる指導を行う。
		② 「空間図形」に関する事。	② 具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、必要な情報を問題解決に用いること。	➡ グラフから課題解決への糸口を読み取る練習を十分に行うことで、グラフから情報を読み取る力の育成を図る。また、複数の形の容器に水を入れる操作活動を行うことで、グラフから読み取った情報との関連を具体的にイメージできるような工夫を取り入れる。
	理科	① 「身のまわりの物質とその性質」に関する事。	① 力（大きさ・向き・作用点）を矢印を用いて表すこと。	➡ 単に作図の技能を習得させるのではなく、実際の現象から、物体に力がどのように働いているのかを考えることができるような指導を行う。
		② 「音の性質」に関する事。	② 被子植物を分類すること。	➡ 既習事項である被子植物の特徴に注目させながら、身近な野菜などの植物を題材に仲間分けを行わせ、これを基に被子植物が双子葉類と単子葉類という2つのグループに分類できることに気付かせるような指導を行う。
		③ 「火山」に関する事。		
	英語	① 絵の内容を適切に表している英文を聞き取ること。	① 単語を正しく覚えること。	➡ 新出単語について、イラストなどを用いて、段階を追って理解させる指導を行う。また、単語を滑らかに発音できるようになるまで練習させるとともに、意図的、継続的に書いて正しく覚えるような指導を行う。
		② まとまった内容の自己紹介を3文以上の英作文で書き表すこと。	② 対話の流れを理解し、適切に質問文を書くこと。	➡ 授業の warm up や教科書の内容理解等の場面で、教師からの一問一答だけでなく、生徒自身が質問する場面を多く設定した指導を行う。また、英文を書く力を身に付けさせるために、それらの活動後に、音声言語は文字として書かせ、添削指導を行う。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
中学校3年	国語	① 話合いの内容を聞き取ること。	① 文学作品において、場面の变化と視点の切り替えを関連付けて読むこと。	➡ 登場人物の心情理解、誰の視点で物語が展開しているのか、構成や表現の特徴について、具体的な部分を取り上げて考えをまとめていく指導を行う。
		② 「文法・語句に関する知識」に関すること。	② 正しい敬語の使い方を身に付けること。	➡ 「お～になる」や「～れる」を用いた文例で、敬語の特徴と敬意の対象を理解させる指導を行う。その上で、ある場面を想定した敬語の使用の正誤を考えさせ、敬語の持つ働きを理解させる指導を行う。
		③ 資料を基にレポートを書くこと。		
	社会	① 「日本の諸地域」に関すること。	① 地図から位置を正確に読み取ること。	➡ 地名が出てきた場合には、必ず地図帳などを用いて位置を確認させるようにする。また、地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野においても同様の指導を繰り返し行い、位置を確認する習慣を身に付けさせるようにする。
		② 「身近な地域の調査」に関すること。	② 複数の資料を関連付けて思考し、表現すること。	➡ 日本の諸地域の学習の際に、複数の資料を用いて、地域ごとの特色を日本全体と比較させる指導を行うことで、資料を正しく読み取り、複数の資料を関連付けて思考する力を高めるようにする。
	数学	① 「連立方程式」に関すること。	① 2つの文字を含む式を簡単にしてから、式の値を求めること。	➡ 文字を色別で分かりやすく視覚化し、どの文字にどの数を代入するのかを明確にするとともに、数値を代入する操作の箇所が少なくなることが実感できるような指導を行う。
		② 「図形の性質」に関すること確率を求めること。	② 与えられた条件から、2つの角が等しいことを正しく説明すること。	➡ 2つの正三角形における証明問題で、角に色を付けて「どの角とどの角を考えているのか」「2角を足せばよいのか、引けばいいのか」ということを視覚的に分かりやすくなるような指導を行い、表現につなげる。
	理科	① 「動物のからだのつくりとはたらき」に関すること。	① 前線が通過するときの天気の変化を予想すること。	➡ 温暖前線と寒冷前線が通過する際の時間ごとの観測値（気象要素）をグラフ化し天気図の変化と比較することで、前線の通過と気象要素との関係を見いだすような指導を行う。
		② 「動物の分類と進化」に関すること。		➡ 「回路と電流・電圧」の導入において、複数の回路における豆電球の明るさの違いから、回路に流れる電流の大きさを定性的にイメージ化し、その違いの要因について考えることで、課題を見いだすような指導を行う。
		③ 「日本の気象」に関すること。	② 複数の抵抗を用いた回路に流れる電流の規則性を見いだすこと。	
	英語	① 絵の内容を適切に表している英文を聞き取ること。	① 話の流れを理解して、適切な応答をすること。	➡ 一問一答形式のQ&Aだけでなく、話の流れを意識しながら複数回やり取りさせる活動を取り入れた指導を継続的に行う。
		② まとまった内容の自己紹介を3文以上の英文で書き表すこと。	② ねらいに沿って聞きたいことを英語で質問する文を正しく書くこと。	➡ 授業における質問文を生徒自身に作成させる場面を増やして、使用頻度を高めるとともに、生徒同士の活動の充実を図る指導を行う。

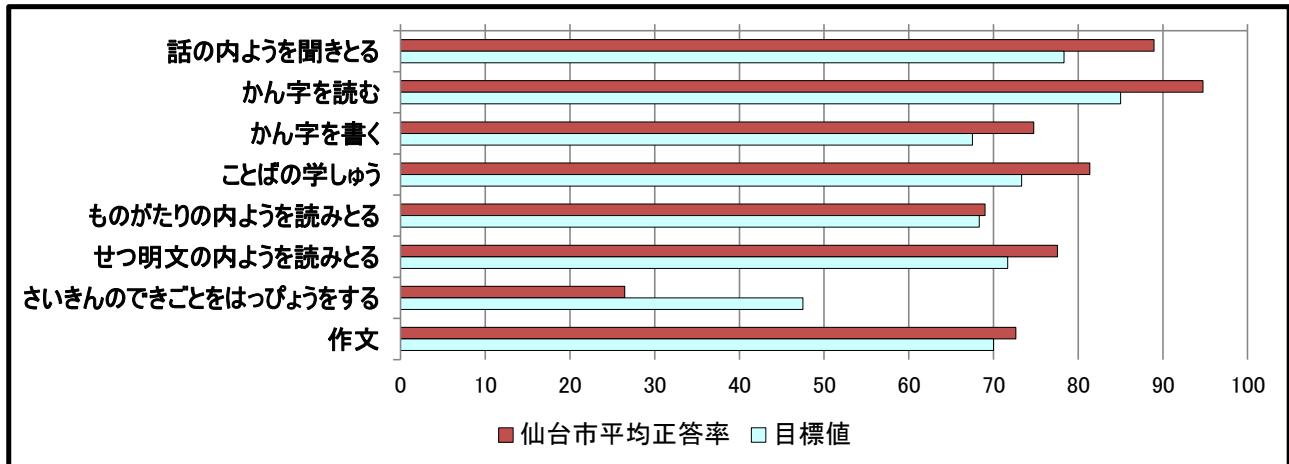
平成30年度仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策【学年・教科】

※ 以下、各学年のグラフは、内容別正答率を表したものの

【小学校3年生 国語】

分析結果

目標値 71.6% 市平均正答率 76.0% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○:成果 ●:課題)

- ①「話の内よきを聞きとる」では、目標値を10.6ポイント上回っている。
- ②「せつ明文の内よきを読みとる」では、目標値を5.9ポイント上回っている。
- ①「ものがたりの内よきを読みとる」では、目標値と同等だが、登場人物の気持ちを読み取ることには課題がある。
- ②「さいきんのできごとをはっぴょうをする」では、目標値を21.0ポイント下回っている。事柄の順序に沿って文章を考えることに課題がある。

指導改善の方策

① 物語の内容を正確に捉え、想像を豊かに読み取ることができるようにするために

この設問では、登場人物の気持ちを読み取ることがをねらいとしている。文章から「ぼく」がタイムスリップしたかったのがいつなのかを読み取るものだが、全文を読めば正しい解答を選ぶことは比較的容易である。しかし、全文を読まずに傍線の近くに書かれている言葉に着目してしまい、場面設定を正確に捉えることができなかったと考えられる。

指導に当たっては、物語の内容を正確に捉えられるように、効果的に音読を取り入れた指導を行うことが有効である。また、場面の様子や登場人物の行動を表す言葉に着目させながら、登場人物の気持ちを読み取らせることが大切である。

② 与えられた条件に沿って文章を書くことができるようにするために

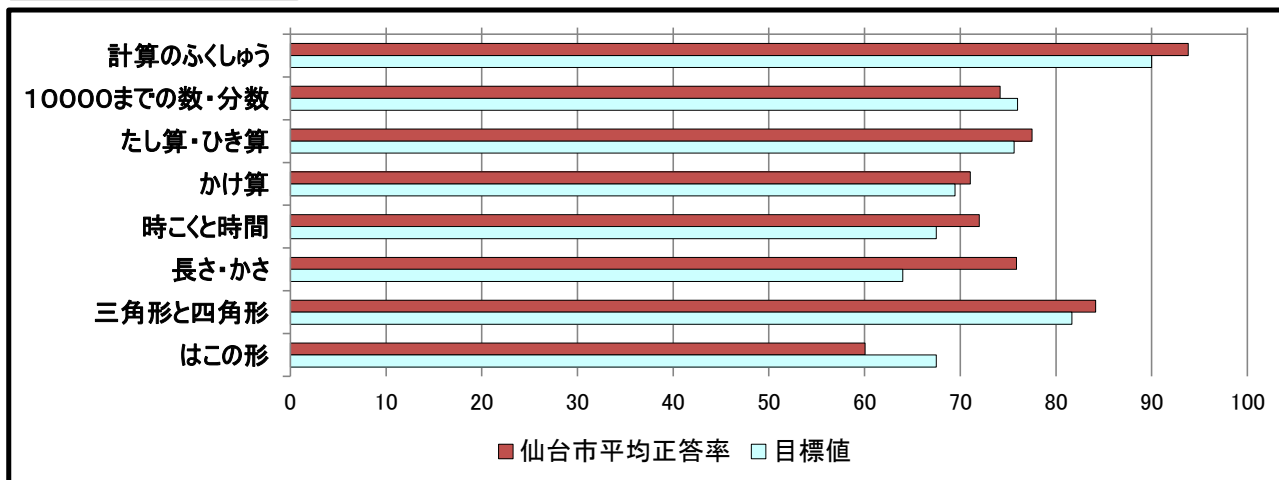
この設問では、与えられた条件のもと、経験・想像したことの中から書く事柄を決め、自分の考えを明確に書くことをねらいとしている。生活文は書き慣れているが、条件に合った文章を書く経験が不足しているために、作文を書けなかった児童が多かったと考えられる。

指導に当たっては、条件を提示し、それに合わせた文章を書かせる指導が有効である。また、「はじめ・中・終わり」の「中」を取り上げて、事柄の順序を意識しながら書かせるなどの工夫が必要である。

【小学校3年生 算数】

分析結果

目標値 72.9% 市平均正答率 75.4% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「時こくと時間」では、目標値を4.5ポイント上回っている。
- ② 「長さ・かさ」では、目標値を11.9ポイント上回っている。
- ① 「10000までの数・分数」では、目標値と同等であったが、もとの大きさの $1/4$ の大きさの意味を理解しているかを問う設問において、目標値を13.8ポイント下回っている。何をもとにするのかなど分数の意味の理解に課題が見られる。
- ② 「はこの形」では、目標値を7.4ポイント下回っており、正方形の面をもつ直方体を作るときに必要な面の形と数を理解しているかを問う設問においては、目標値を20.1ポイント下回っている。直方体を構成する面についての理解に課題が見られる。

指導改善の方策

① もとの大きさの $1/4$ の大きさの意味を理解できるようにするために

この設問では、何をもとの大きさとするのか、倍や分数の意味を理解しているかが問われている。正答は「 $1/4$ 」だが、誤答では「4倍」と答えた児童が多かった。これはもとにする大きさの設定を間違えたためであり、問題や図から正確に読み取る力に課題があった。

指導に当たっては、円などの図形を均等に分割し、その一部を塗りつぶした図とその図を表す分数とを関連付ける活動を通して、分数の意味について確認し、何をもとの大きさとするのか、また何等分されていてその幾つ分なのかを様々な問題を通して考えさせることが大切である。

② 正方形の面を持つ直方体を作るときに必要な面の形と数を理解できるようにするために

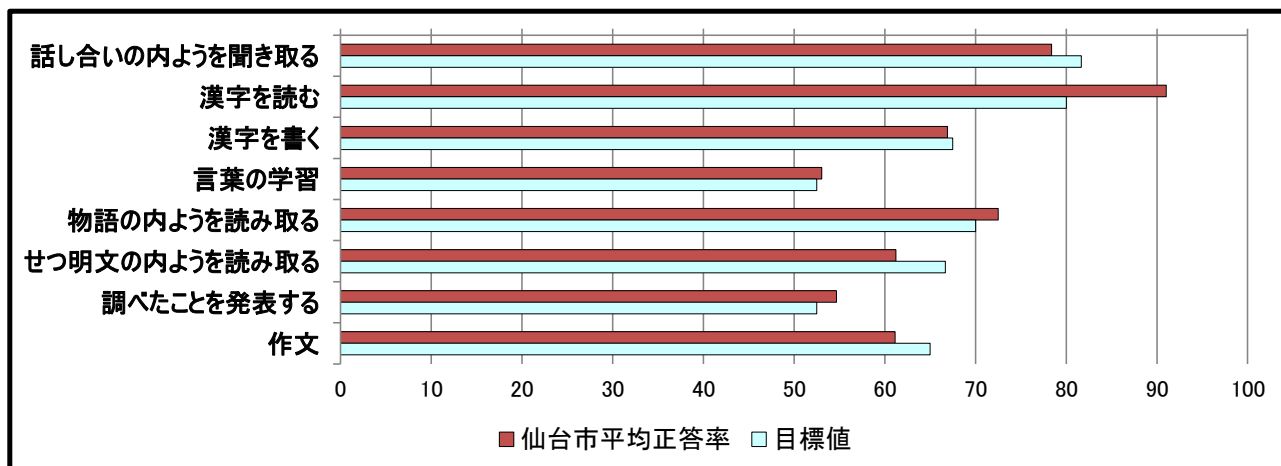
この設問では、正方形の面を持つ直方体を作るときに必要な面の形と数を判断する力が求められる。

指導に当たっては、まず、直方体は、6つの面で構成されていることを確認する必要がある。そして、直方体には、長方形だけで囲まれたものや、長方形と正方形で囲まれたものがあり、今回の設問のように正方形の面を持つ直方体であれば、同じ面の数も変わってくることを様々な直方体を作ったり、観察したりすることを通して、直方体の特徴を体験的に理解できるよう指導を工夫していくようにする。

【小学校4年生 国語】

分析結果

目標値 67.4% 市平均正答率 67.9% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「漢字を読む」では、目標値を11.0ポイント上回っている。
- ① 「言葉の学習」の問題全体では目標値と同等であったが、主語・述語、ローマ字等の基礎的知識を問う設問においては目標値を10.8ポイント下回った。同一集団の経年変化を見ると、3年時の基礎的知識を問う設問では目標値を11.3ポイント上回っており、今年度大きく落ち込む結果となった。
- ② 「せつ明文の内よを読み取る」の問題全体では目標値を5.5ポイント下回り、基礎的知識を問う設問においては目標値を10.5ポイント下回った。文章全体における段落の役割を理解し、段落相互の関係に目を向けながら文章の内容を的確に読み取る力に課題が見られる。

指導改善の方策

① 主述の関係を確実に理解させて、修飾語を学ばせるために

この設問では、目的語や修飾語が入った文の主語と述語を理解していることが求められている。省略や、主語、述語の順番の入れ替えもなく、比較的平易な構造の文であると考えられる。

指導に当たっては、「主語と述語」については、2年生で最初に取り扱われる学習内容である。2年生での学習を想起させ、確実に理解させた上で、修飾語を含んだ文の学習を進めることが必要である。

② 問いの文が書かれている段落を見付けながら読む力を付けるために

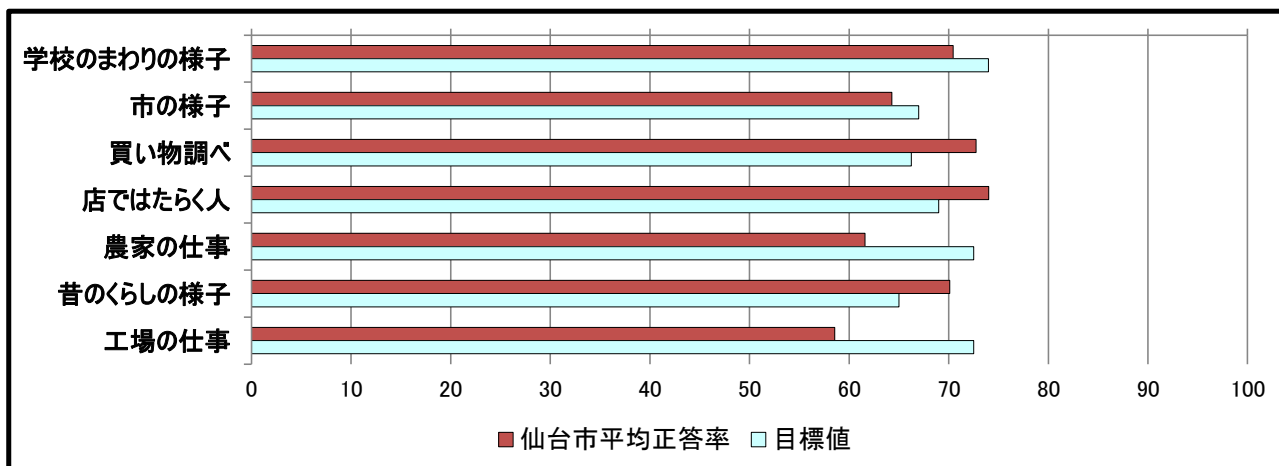
問題では「問い」が書かれている「段落」を選ぶことが問われている。「問い」の文は二つあり、「どうして～でしょうか。」「なぜ～でしょう。」という基本的な形となっており、文頭や文末の言葉を手掛かりにすれば、見付けやすいものと思われる。

指導に当たっては、「問い」や「段落」という用語は、3年生で最初に取り扱われる学習内容である。説明文における「問い」と「答え」の構成を押さえさせながら、「問い」の意味や見付け方を、繰り返し意識させることで、定着させることが必要である。また、平易な文章から問いの文を見付けさせ、次第に難易度を高めた文章に取り組みさせていくことも有効である。

【小学校4年生 社会】

分析結果

目標値 68.8% 市平均正答率 69.3% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「買い物調べ」では、目標値を6.5ポイント上回っている。
- ② 「学校のまわりの様子」では、絵地図をつくる際の工夫を問う設問において、目標値を20.8ポイント下回っている。絵地図のかき方やつくる際の工夫を理解し、示された絵地図からその工夫を読み取ることに課題があると考えられる。
- ③ 「農家の仕事」では、資料を基に農家の仕事の進め方について問う設問において、目標値を16.3ポイント下回っている。資料から農家の仕事の進め方を読み取り、農家の仕事の工夫について考えることに課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 絵地図のかき方やつくる際の工夫を理解させ、絵地図からその工夫を正しく読み取らせるために

この設問では、示された絵地図を見て、絵地図をつくる際の工夫について正しく読み取ることが求められている。正答は「せつめいしやすいように、学校をほぼ中心にしてつくった。」だが、「家の形や店の名前を細かく調べてつくった。」との誤答の割合が多く、31.1%であった。これは、実際に児童が絵地図を作る際、学校周辺の建物や店の名前などについて詳しく調べた経験の影響が大きいものと推察する。

指導に当たっては、例えば「友達にお気に入りの場所を紹介するために絵地図をつくる」という目的を明確にして学校周辺を調査させ、絵地図を作成する際に、その目的に応じてかき方を工夫を考えさせることが重要である。児童が学校のまわりの様子について意欲的に調べたり、詳しく調べたりする姿勢は望ましいが、それだけではなく、何を目的に調べさせるのか、そのために、どのようにまとめさせるのかを意識して指導したい。また、他の児童の絵地図を見て「お気に入りの場所」を知るとともに、絵地図を作成する上での工夫を読み取らせる活動が理解の定着につながるものと考えられる。

② 資料の内容を正しく読み取らせるために

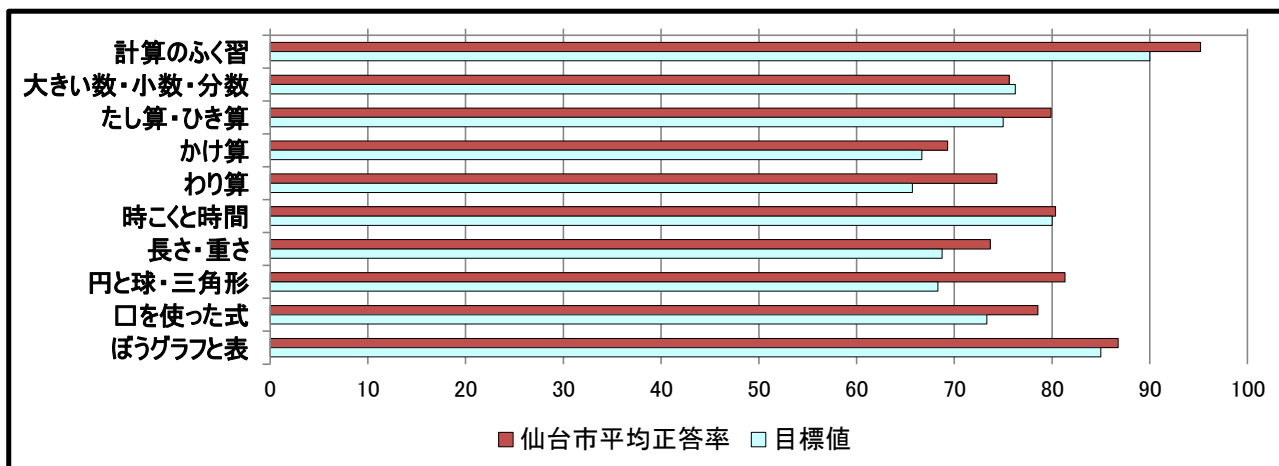
この設問では、資料から農家の仕事の進め方や作業の工夫について正しく読み取れるかが問われている。誤答率は38.0%と高く、作業の工夫とその目的について正しく読み取る技能が身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、農家の仕事について見学や調査をする際、仕事の進め方や作業の工夫に着目させ、その目的と関連付けて農家の仕事を考えるようにさせたい。例えば「野菜を一年中収穫するために、季節に合わせて種まきの時期を5回に分ける工夫をしている」「野菜の育ちを早くするために、ビニールシートをかけて土を温める工夫をしている」など、学習のまとめの段階で、作業の目的と工夫を関連付けて表現させたり、考えを交流させたりする活動が大切である。また、児童が表現したものや資料から農家の仕事の進め方や作業の工夫とその目的を読み取る活動を意図的に組み込むことも考えられる。

【小学校4年生 算数】

分析結果

目標値 73.2% 市平均正答率 77.6% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「円と球・三角形」では、目標値を13ポイント上回っている。
- ② 「わり算」では、目標値を8.6ポイント上回っている。
- ③ 「□を使った式」では、目標値を5.3ポイント以上上回っている。
- ④ 「大きい数・小数・分数」では、1/6 mの6個分の長さを求める設問において、目標値を18.5ポイント下回っている。数直線上に示された分数を読み取ることに課題が見られる。
- ⑤ 「長さ・重さ」では、身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を選択する設問において目標値を10.7ポイント下回っている。重さについての量感の捉え方に課題が見られる。

指導改善の方策

① 分数の意味や表し方の理解を深めるために

この設問では、1/6という単位分数を基にして、その6つ分が1に当たることについての理解が問われている。目標値が80.0%に対し、市平均正答率は61.5%と18.5ポイント下回った。また、誤答として、23.8%の児童が6mと解答していることから、1mを6等分した1つ分が1/6mであるという分数の意味や表し方についての理解が不十分であることが推察される。

指導に当たっては、作業的・体験的な活動など算数的活動を通して、実感を伴いながら分数の意味や表し方を理解させることが大切である。

② 身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使うことができるようにするために

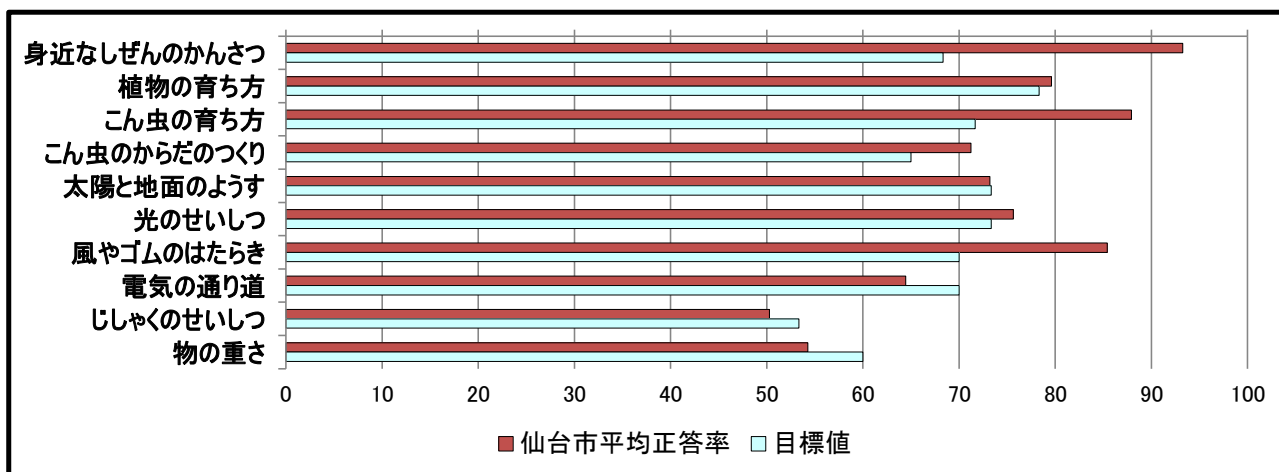
この設問では、身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を選択することができるかが問われている。目標値が75.0%に対し、市平均正答率は64.3%と10.7ポイント下回った。また、誤答として、18.5%の児童が「自動車1台の重さ…2kg」を選択し、「テレビ1台の重さ…12t」や「子ねこ1匹の重さ…200kg」を選択している児童も少なくないことから、重さについての量感が不十分であることが推察される。

指導に当たっては、身近なものの重さを量感を基に予想させながら、測定活動を繰り返すことで、量感を伴いながら適切な単位を選択できるようにしていくことが大切である。

【小学校4年生 理科】

分析結果

目標値 68.9% 市平均正答率 73.2% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「身近なしぜんのかんさつ」では、目標値を 25.0 ポイント上回っている。
- ② 「こん虫の育ち方」では、目標値を 16.2 ポイント上回っている。
- ① 「電気の通り道」では、絶縁シートの材料として不適切な物を問う設問において、目標値を 9.7 ポイント下回っている。日常に利用されている電気を通さない物（絶縁体）についての理解に課題がある。
- ② 「じしゃくのせいしつ」では、分けられた磁石の極を調べる実験の結果をもとに、正しい予想を選び、その理由を説明する設問において目標値を 16.7 ポイント下回っている。実験を通して磁石の性質について理解することに課題がある。

指導改善の方策

① 絶縁シートの材料として適切な物について理解させるために

この設問では、絶縁シートの材料に適している物について理解しているかどうか問われている。誤答分析から、絶縁体として不適切な物として「わゴム」と解答した割合が 18.4%、「ぬののリボン」と解答した割合が 20.0%であったことから、絶縁体について、十分に理解していないものと考えられる。また、絶縁シートをはさんだ回路と、児童が経験している実験方法の間に乖離があり、同様の現象であることが認識できなかったものと推察できる。

指導に当たっては、児童が実験で使用する回路のスイッチ部分に布等で作ったシートをはさんだり、引き抜く操作をして、豆電球の明かりがつくかどうか確かめることで、絶縁シートとして適切な物について理解を深めさせたい。また、実際に絶縁シートが使われて販売されている電気製品を提示するなど、実社会・実生活における事象と関連付けた指導を行うことも必要である。

② 分けられた磁石にもN極、S極があることを理解させるために

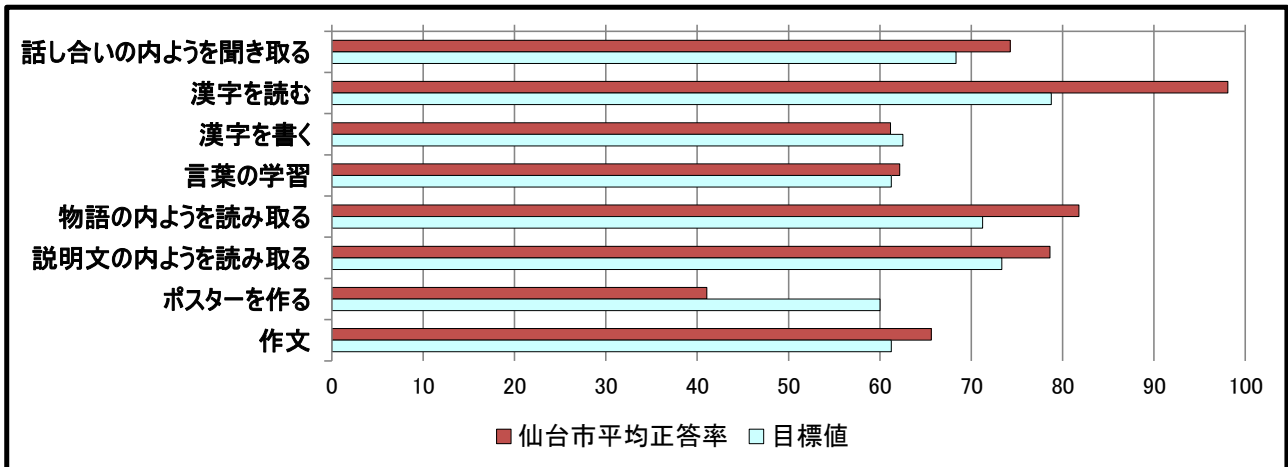
この設問では、実験結果から半分に折った棒磁石の極について推測することが求められている。誤答分析から、「それぞれN極だけ、S極だけの磁石になる」と解答した児童の割合は、38.9%、「磁石の極がなくなる」と解答した児童の割合は、22.3%であり、分けられた磁石にもN極、S極があることを理解していないものと思われる。

指導に当たっては、磁石の極を調べる実験を行うだけでは不十分であり、実際に折れた磁石の極を調べる実験や、磁石は小さい磁石の集合であることをイメージできるような実験を通して磁石の性質についてより理解を深めていく必要があると考えられる。

【小学校5年生 国語】

分析結果

目標値 67.3% 市平均正答率 72.0% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は、目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「漢字を読む」では、目標値をポイント19.3ポイント上回っている。
- ② 「物語の内ようを読み取る」では、目標値を10.5ポイント上回っている。
- ③ 「説明文の内ようを読み取る」では、目標値を5.3ポイント上回っている。
- ④ 「漢字を書く」では、目標値とほぼ同等である。しかし、同音だが字も意味も異なる漢字がある設問の誤答が多く見られる。また、全ての設問の無解答率が10%を上回っている。
- ⑤ 「ポスターを作る」では、目標値を18.9ポイント下回った。求められている情報を取り出し、適切な言葉で表現することに課題がある。

指導改善の方策

① 漢字を正しく使える力を身に付けさせるために

この設問では、4年生配当漢字を正しく書くことが求められている。この設問の「しゅう」「あたり」などで、同じ読み方の漢字での誤答が多いと考えられる。4年生では、「漢字の読み方に気をつけよう」「漢字辞典の使い方を知ろう」「同じ漢字の読み方に気を付けよう」「漢字を使って読みやすい文を書こう」まで漢字に関する学習が重視されている。

指導に当たっては、文や文章の中で正しく漢字を使える力を確かなものにするために、漢字練習の方法を工夫したり、辞書を生かした指導を意識したりするなど、日常的に漢字に慣れ親しませる指導が必要である。

② 資料から情報を取り出し、適切な言葉で表現させるために

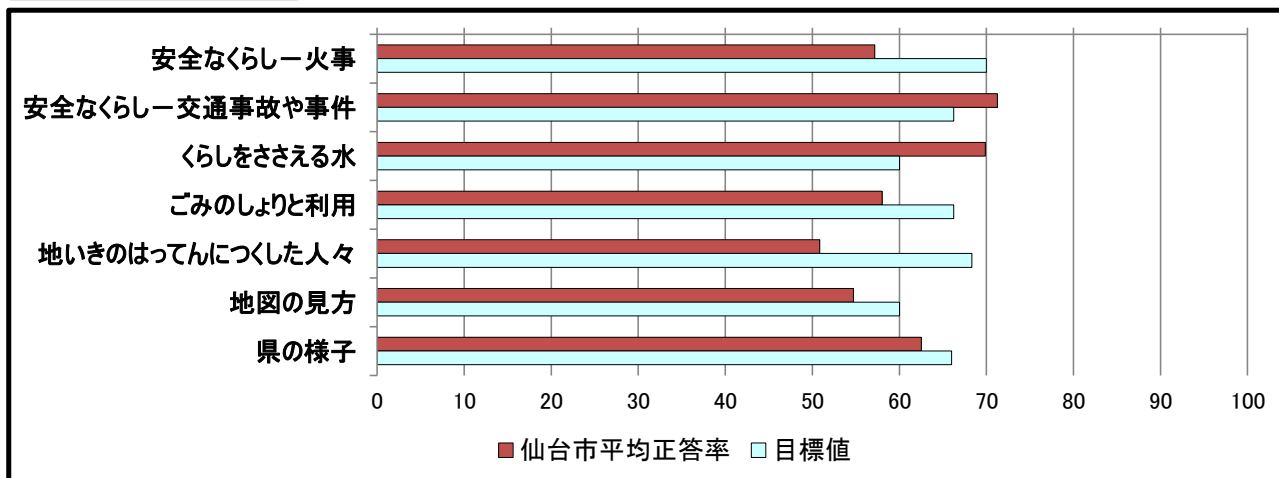
この設問では、資料から情報を関連付けて読み取ることが求められる。その上で、読み取った情報を基に適切な言葉で表現することをねらいとしている。

指導に当たっては、図表やグラフ、写真などを含む様々な資料から読み取れることを視覚化したり、資料同士を関連付けたりして、情報を読み取る力や、読み取った情報を基にして文章にまとめさせる学習を取り入れ、自分の言葉で表現する力を高めるようにする。

【小学校5年生 社会】

分析結果

目標値 65.0% 市平均正答率 61.6% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値－5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値＋5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「ぐらしをささえる水」では、目標値を9.9ポイント上回っている。
- ①「ごみのしよりと利用」では、ごみの量の変化を表すグラフや資料を読み取り、変化の理由を表現する設問において目標値を15.9ポイント下回っている。無解答率は17.5%であり、複数の資料から必要な情報を読み取り、活用する技能に課題があると考えられる。
- ②「地いきのはってんにつくした人々」では、地域の地形の特徴を問う設問において目標値を37.4ポイント下回っている。地図を適切に読み取る技能に課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 資料の内容を読み取り、活用できるようにするために

この設問では、ごみの量、人口の変化及びごみ出しに関する資料から、ごみの量の変化を読み取るとともに、その理由について考え、表現することができるかが問われている。正答率が24.1%と低いことから、ごみの量の変化を表す棒グラフは読み取れているものの、その理由について複数の資料を読み取り、関連付けて考えることに課題があるものと考えられる。

指導に当たっては、ごみの量の変化の理由について、一つ一つのグラフや資料から読み取ったことを詳しく確認した上で、必要な情報を取捨選択し、それぞれの情報を関連付けて考えさせることが大切である。人口は増えているのにごみの量は変化していないことに疑問を持たせ、その理由について予想を立てながら関係する資料を読ませたい。また、日々の授業の中で、グラフや資料の見方について繰り返し指導したり、資料から分かったことを文章で表現させたりする機会を意識的・継続的に設けることが必要である。

② 地形図から適切に情報を読み取らせるために

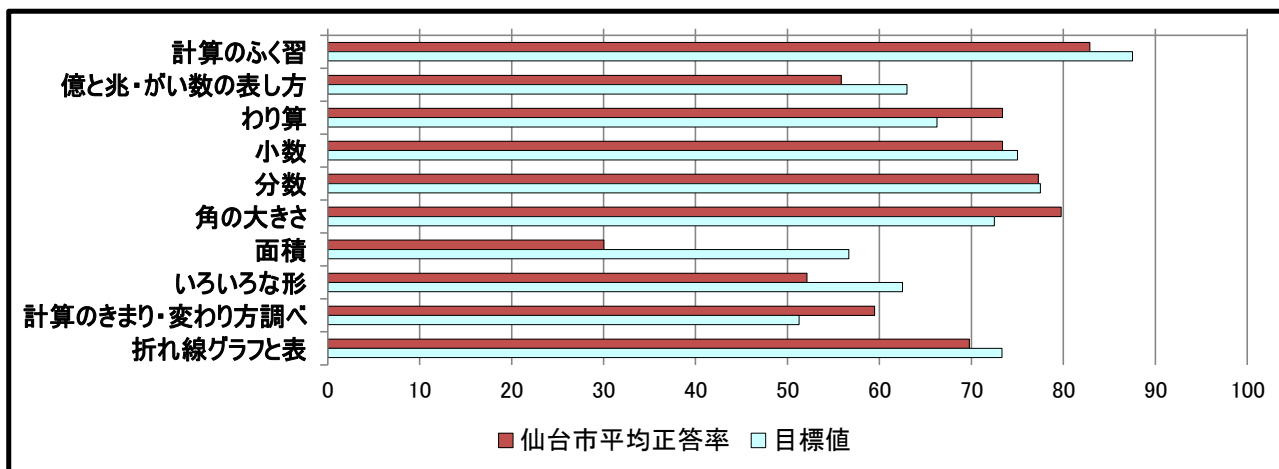
この設問では、地形図から正しい情報を読み取れるかが問われている。誤答分析から、等高線や道路、川などが複雑に示された地形図から、等高線を読み取れず、地形の特徴を正しく判断することができなかつたものと考えられる。

指導に当たっては、方位や地形、土地利用の様子といった様々な視点から地図の見方を指導したり、立体模型などを使いながら、地形図に慣れ親しませたりすることで、適切に地形図を読み取ることができるようにすることが大切である。また、様々な単元の中で地図帳を適宜活用するようにしたい。

【小学校5年生 算数】

分析結果

目標値 67.7% 市平均正答率 64.7% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「計算のきまり・変わり方調べ」では、目標値を8.2ポイント上回っている。
- ① 「面積」では、長方形の面積を求め、単位換算をする設問において、目標値を34.4ポイント下回っている。単位の相互的な関係の理解に課題が見られる。
- ② 「いろいろな形」では、直方体のある面と平行な辺を選ぶ設問について目標値を22.1ポイント下回っている。面と辺の垂直、平行についての理解に課題が見られる。

指導改善の方策

① 単位換算の理解を深めるために

この設問では、面積の求め方と単位換算の方法について問われている。児童の37.8%が約12000000 km^2 を選択している。誤答が多くなった原因として、面積を求めることはできるものの、単位の大きさに注視せず、導いた数値をそのまま選択したことが考えられる。

指導に当たっては、単位換算をしてから面積を求める方法とその逆の方法のどちらが適切かを判断させることが大切である。算数的活動を通して量感を育て、合理的な計算方法を身に付けていくことが求められる。

② 面と辺の関係を正しく捉えることができるようにするために

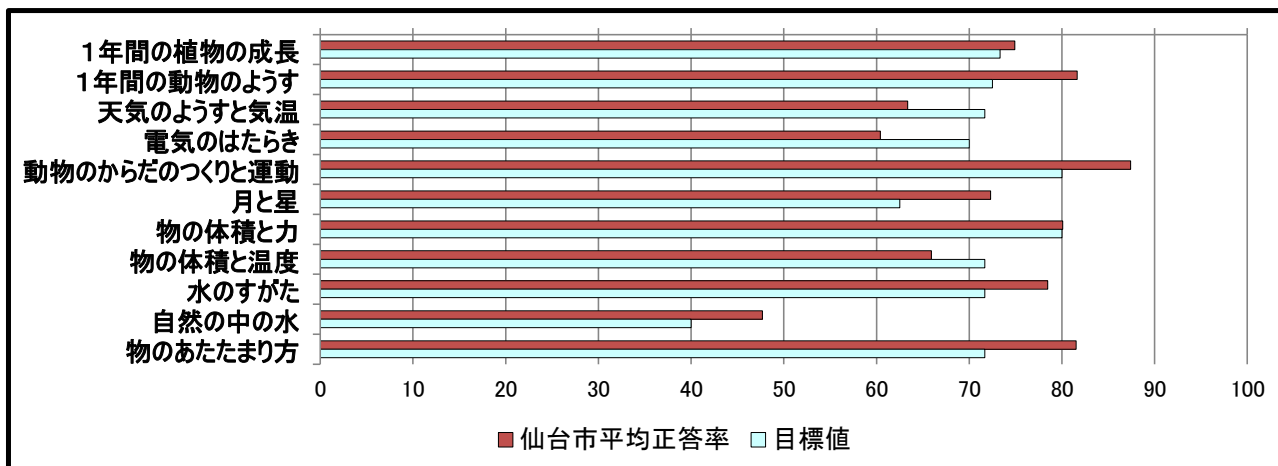
この設問では、直方体のある面と平行な辺がどれかを問われている。手前に見えている辺に対して平行な辺を選択した誤答が20.1%、面に対して垂直な辺を選択した誤答が21.3%となっていることから、垂直と平行についての理解と、図形を多面的に見る力が十分でないことがうかがえる。

指導に当たっては、先に学習する「垂直・平行と四角形」において、辺と辺の交わり方や並び方について十分に理解させておくことが大切である。そのために、辺に色を付けるなど作業的・体験的な算数的活動を取り入れ、辺と辺の関係を捉えた上で、面にも、その考えがつながると気付くことができるような指導を意識していく必要がある。

【小学校5年生 理科】

分析結果

目標値 68.6% 市平均正答率 70.8% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ -5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「物のあたたまり方」では、目標値を9.8ポイント上回っている。
- ② 「月と星」では、目標値を9.8ポイント上回っている。
- ① 「物の体積と温度」では、温度による空気、水、金属の体積変化を問う設問において、目標値を16.9ポイント下回っている。特に、水と金属の体積変化の差を捉えることに課題がある。
- ② 「自然の中の水」では、空気中の水蒸気を取り出す方法を問う設問において、目標値を22.6ポイント下回っている。特に、結露の仕組みについて理解に課題がある。

指導改善の方策

① 温度による空気、水、金属の体積の変化量を正しく理解させるために

この設問では、温度による空気、水、金属の体積変化について、理解しているかが問われている。誤答分析では、3分の1以上の児童が誤答し、無解答率も1.9%であった。これは、空気、水、金属の温度による体積の変化量を比較して考えさせる活動が十分になされていないものと考えられる。

指導に当たっては、空気や水、金属について湯せんで温めた場合の、それぞれの体積の変化と、金属について火で加熱した場合の体積の変化の観察を通して、金属は、体積の変化量が空気や水に比較して小さいことを理解させたい。

② 空気中の水蒸気は、冷やして取り出せることを理解させるために

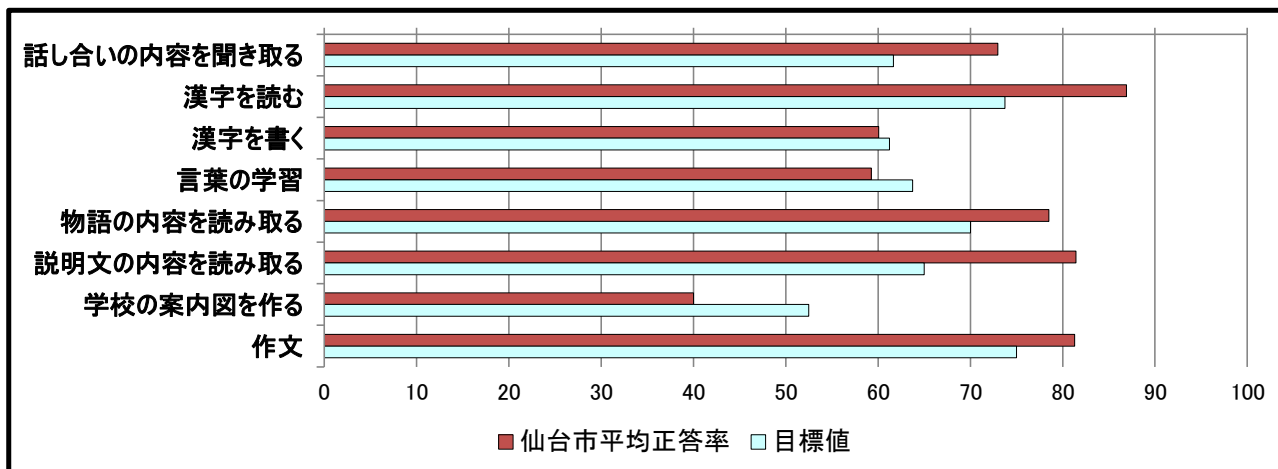
この設問では、結露の現象を基に水蒸気を取り出す方法について問われている。誤答分析から、8割以上の児童が結露の仕組みについて理解できていないと言える。併せて、既習内容を一般化して考える力が十分に育っていないことも正答率の低い原因として考えられる。

指導に当たっては、前単元「水のすがたと温度」の学習と関連付けて、「加熱蒸発によって生じた水蒸気が冷えて水になる」現象について、実験等により着実に確かめることが必要である。

【小学校6年生 国語】

分析結果

目標値 66.4% 市平均正答率 71.7% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「話し合いの内容を聞き取る」では、目標値を 11.3 ポイント上回っている。
- ② 「説明文の内容を読み取る」では、目標値を 16.4 ポイント上回っている。
- ① 「物語文の内容を読み取る」では、目標値を 8.5 ポイント上回っているが、同一集団による経年変化で比較すると、5年時より 5.0 ポイント下回っており、物語文の読み取りに課題が見られる。
- ② 「学校の案内図を作る」では、目標値を 12.5 ポイント下回っている。必要な情報を選別し、読み取った情報を活用して文章にすることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 中心人物の心情を読み取ることができるように

この設問では、叙述を基に登場人物の心情を読み取ることが求められている。目標値を上回っているものの、誤答分析から、中心人物と関わりのある人物との心情が混交してしまったり、文章の全体から読み取るのではなく、文章の一部分から読み取ったことを基に解答していることがうかがえる。

指導に当たっては、物語全体を捉えさせたうえで、中心人物の心情を場面ごとに丁寧に読み取るように指導を工夫していくことが大切である。

② 条件を踏まえて書くことができるように

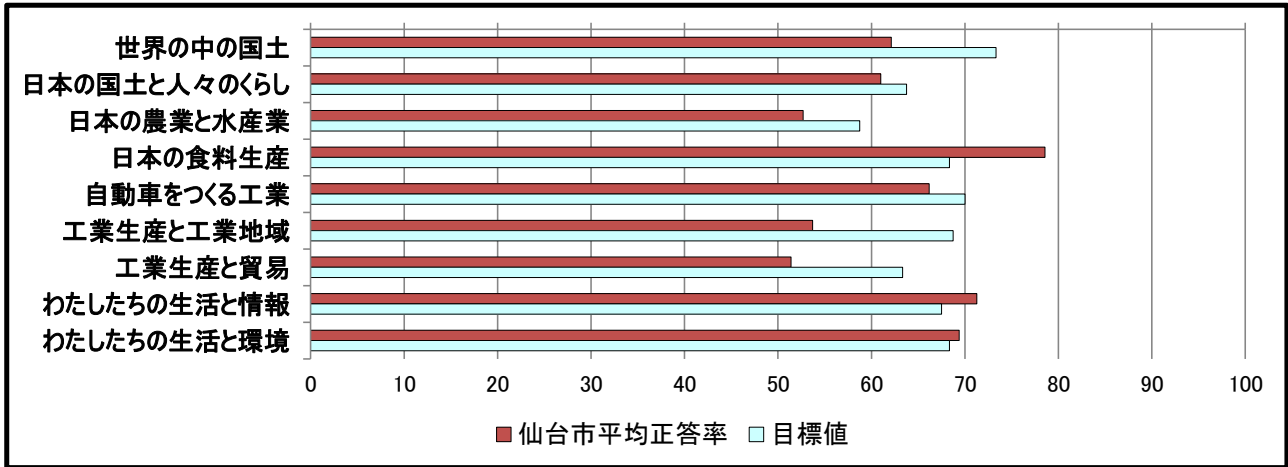
この設問では、適切な情報を選別して文章を書くことをねらいとしている。誤答分析から、問題文と話し合いの内容から分かる「案内図を作った目的」の理解と、それに合わせた情報の読み取りと関連付けができていないことがうかがえる。

指導に当たっては、読み取る観点を基に資料から正確に読み取ることや、読み取ったことから必要なことを選んだり関連付けたりするなどして、情報を活用しながら文章にまとめる方法を丁寧に指導することが大切である。

【小学校6年生 社会】

分析結果

目標値 66.7% 市平均正答率 62.0% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「日本の食料生産」では、目標値を 10.3%上回っている。
- ② 「日本の農業と水産業」のさいばい漁業について問う設問において、目標値を 23.7%下回っている。基礎的な知識の定着に課題が見られる。
- ③ 「工業生産と工業地域」では、工業地域の立地条件について記述する設問において、目標値を 12.9%下回っている。資料から読み取ったことと、既習の知識と関連付けて表現する技能に課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 用語・語句を理解させるために

この設問では、「育ててとる漁業」というキーワードと、「いろいろな種類の魚や貝などの卵や稚魚を、ある程度の大きさになるまで育てたあと放流し…」という説明から「さいばい漁業」と判断することが求められている。育ててとる漁業の一つとして養殖業も挙げられるが、養殖業と栽培漁業という用語やその違いについて、知識として定着していなかったものと考えられる。

指導に当たっては、様々な漁業について、グラフを読み取らせたり、映像資料を視聴させたりするなど、漁業の名称と特徴を関連付けて指導の中で、「つくり育てる漁業」である養殖業と栽培漁業の違いについて理解させたい。さらに、日本の漁業が抱える課題や現状についても資料等を用いて考え、学習した用語、語句を用いて、本時のまとめを書く活動を継続して行うなど、知識を活用して表現する力を養っていきたい。

② 資料を読み取り、キーワードを用いて文章で表現する力を高めるために

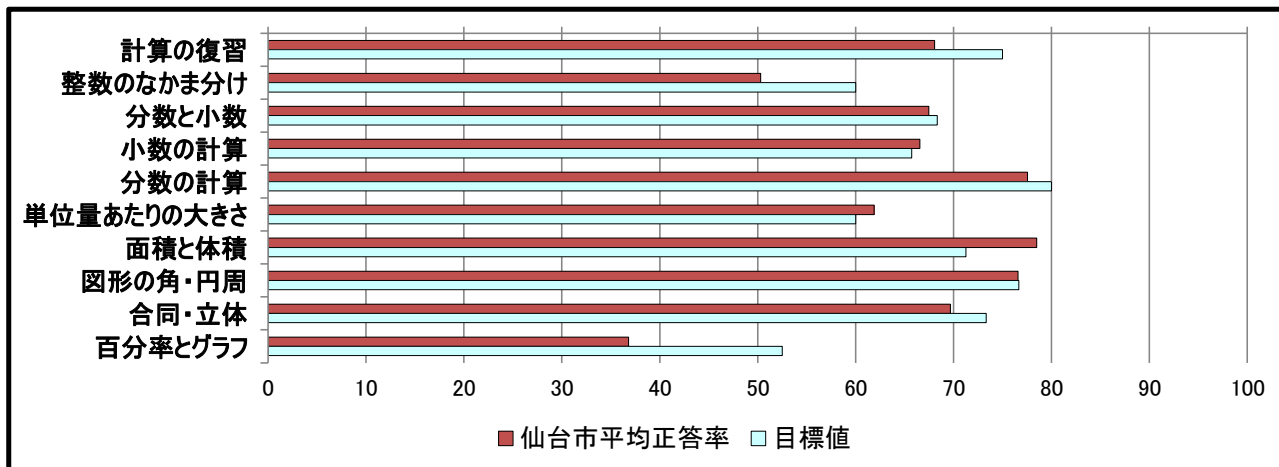
この設問では、工業地帯・工業地域の分布に関する資料から、共通の工場立地の条件について読み取り、「船」というキーワードを用いて文章で説明することが求められている。正答率が 27.1%と低く、また無解答率が 25.3%と高いことから、資料から獲得した情報を適切に表現できていない児童が多いと考えられる。

指導に当たっては、工業地帯・工業地域の分布が示された資料を基に、工場が集中する地域の共通点について理解させることが重要である。日本の工業生産の特徴として、原材料を輸入し、工業製品を輸出する加工貿易が盛んであり、輸送には船が使われることから、工業生産の特徴と工場の立地場所とを関連付けて理解させることが大切である。また、日々の授業の中で、キーワードを用いて自分の考えを書く活動を取り入れることで、文章で表現する力を高めていきたい。

【小学校6年生 算数】

分析結果

目標値 67.8% 市平均正答率 65.0% <5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「面積と体積」では、目標値を7.2ポイント上回っている。
- ② 「整数のなかま分け」では、奇数+奇数=偶数、偶数+偶数=偶数となることを求める設問において、目標値を23.0ポイント下回っている。偶数と奇数の理解に課題が見られる。
- ③ 「百分率とグラフ」では、与えられた基準量と割合から求められた比較量を比べ、発言が正しくない理由を説明する設問において、目標値を17.0ポイント下回っている。また、無解答率は58.8%と高い。基準量、比較量、割合の三つの求め方を理解した上で、与えられた数値を基に計算をし、それぞれを求めることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 偶数と奇数の性質を理解することができるようにするために

この設問では、偶数と奇数の性質を理解していることが求められる。誤答分析から、「クラスの人数は偶数」という与えられた条件を見落としているために、よく意味を考えずに奇数と偶数のどちらかの語句を空欄に入れてしまったと考えられる。

指導に当たっては、すべての整数は偶数と奇数に分かれ、交互に並んでいることを捉えさせ、その性質を理解させることが重要となる。その上で、奇数と偶数を様々な組み合わせで足した場合、結果は奇数と偶数のどちらかになるのかということと、その理由まで思考を広げ、数に対する理解を深めさせることも大切となる。

② 与えられた情報を読み取り、割合（基準量や比較量）の理解を深めるために

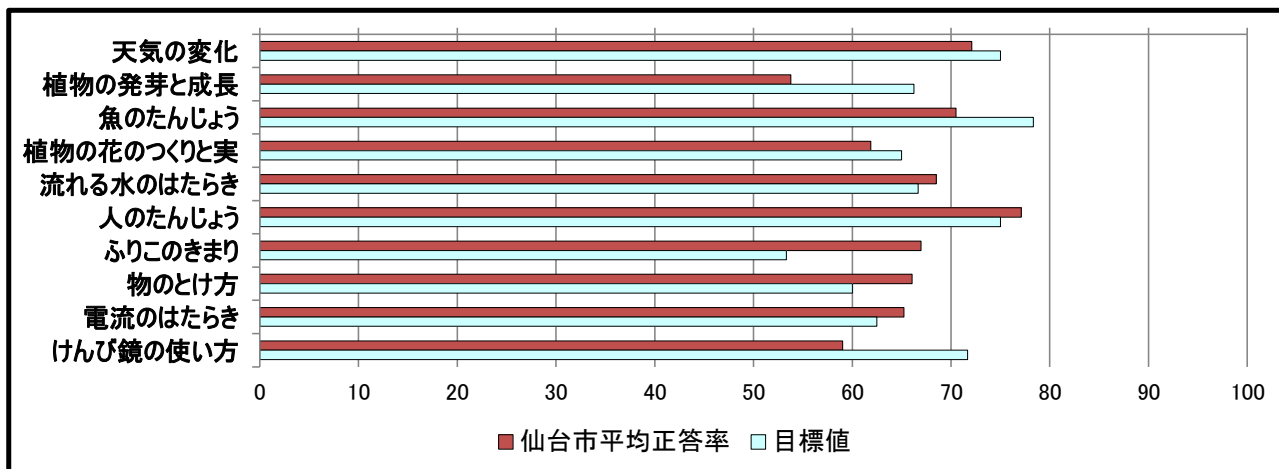
この設問では、示された棒グラフや帯グラフを読み取り、林業で働く人全体に対する35才未満の人の割合について、記述が正しくないことを、言葉や式を使って説明することが求められている。基準量が違うために、割合を単純に比較することができない場面であるが、割合についての理解が十分でなかったことが誤答につながったと考えられる。また、正答率が23.0%であり、多くの児童が複数の資料から情報を適切に読み取れなかったことが考えられる。さらには、記述が間違っていることを、どのように筋道立てて説明したらよいか分からなかったものと推察される。

指導に当たっては、割合には基準量と比較量の二つの量が関係していることを理解させ、基準量、比較量、割合の関係について、図などを用いて視覚的に捉えさせることが重要になる。また、グラフから割合を読み取り、基準量や比較量を求め、それぞれの関係について説明する学習を取り入れていくことも大切である。

【小学校6年生 理科】

分析結果

目標値 67.2% 市平均正答率 65.5% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「ふりこのきまり」では、目標値を13.7ポイント上回っている。
- ② 「物のとけ方」では、目標値を6.1ポイント上回っている。
- ① 「植物の発芽と成長」では、適切な対照実験を問う設問において、目標値を29.0ポイント下回っている。実験をする際に、条件を整理し、制御することに課題がある。
- ② 「流れる水のはたらき」では、平地を流れる川の流れと堆積のはたらきについて問う設問において、目標値を9.9ポイント下回っている。流れの速さとはたらきの関係について考えることに課題がある。

指導改善の方策

① 適切な対照実験を行うことができるようにするために

この設問では、種子の発芽条件を調べるのに適切な実験方法を判断することが求められている。誤答分析から、発芽に必要な適当な温度を確かめるに当たり、調べる条件を変えることは理解しているものの、統一すべき条件の確認が不十分であり、実験をする際に、条件を整理し、制御することの理解に課題があるものと考えられる。

指導に当たっては、調べる条件を考えるだけでなく、そろえる条件についても丁寧に確かめる必要がある。「空気の条件を調べる実験でバーミキュライトを使用しないのは、バーミキュライトが空気を含みやすい特徴を持っているためである」「温度の条件を調べる実験で、日光を遮断するのは冷蔵庫の内部が暗いためである」と条件を統一させるために、制御する必要があることを理解させた上で、実験させることが大切である。

② 平地あたりを流れる川の流れと堆積のはたらきについて理解させるために

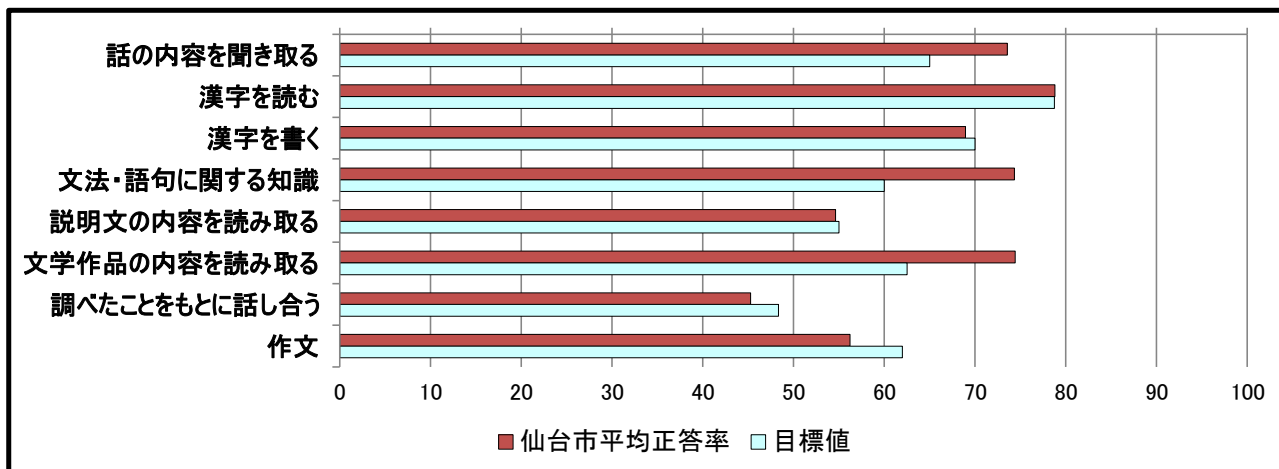
この設問では、流水のはたらきと土地の変化の関係について理解しているかが問われている。誤答分析から、約6割の児童が平地では水の流れが遅くなることを理解しているが、それに伴い、堆積のはたらきが大きくなることを理解している児童は、1割減った5割程度となり、およそ半数の児童は、平地では川の流れが遅くなることと、それに伴って堆積のはたらきが大きくなることを併せて理解していないものと考えられる。

指導に当たっては、水の流れが遅くなると堆積作用が大きくなることを実験で確認できるようにする必要がある。ここでは、土や砂が移動しなくなり溜まっていく様子と、水が流れ続けている様子の両方を観察できるようにし、児童の理解を深めさせたい。

【中学校 1 年生 国語】

分析結果

目標値 63.1% 市平均正答率 66.1% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「文法・語句に関する知識」では、目標値を 14.3 ポイント上回っている。
- ②「文学作品の内容を読み取る」では、目標値を 11.9 ポイント上回っている。
- ①「調べたことをもとに話し合う」では、互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う設問において、目標値を 24.0 ポイント下回った。話し手がどの立場で話し合っているか意識できていないものと考えられる。
- ②「作文」では、目標値を 5.8 ポイント下回っている。条件に合わせて、自分の考えを明確に書くことに課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 意見と理由とのつながりを聞き取らせるために

この設問では、話し合いの様子から、複数の話し手がどの立場で意見を述べているのか理解することが求められている。「前の人の意見に賛成してから、新たな課題について話している」という誤答が 39.8% となり最頻出値となっていることから、同意する言葉や文末だけに目が向き、内容を正しく捉えていないことがうかがえる。

指導に当たっては、メモの取り方を工夫させ、話し手が述べている意見とその意見に対する理由が適切かどうかを考えながら聞き取らせる。また、話し合いの際には、話し合いの議題や観点を示し、それらを児童に意識させて取り組ませる必要がある。

② 読み取ったことを基に自分の考えをまとめさせるために

この設問では、指定された文字数（141 字以上 180 字以内）、段落（3 段落構成）で、話し合いの内容について A、B どちらの意見に賛成か自分の立場を明確にして文章を書くことが求められている。

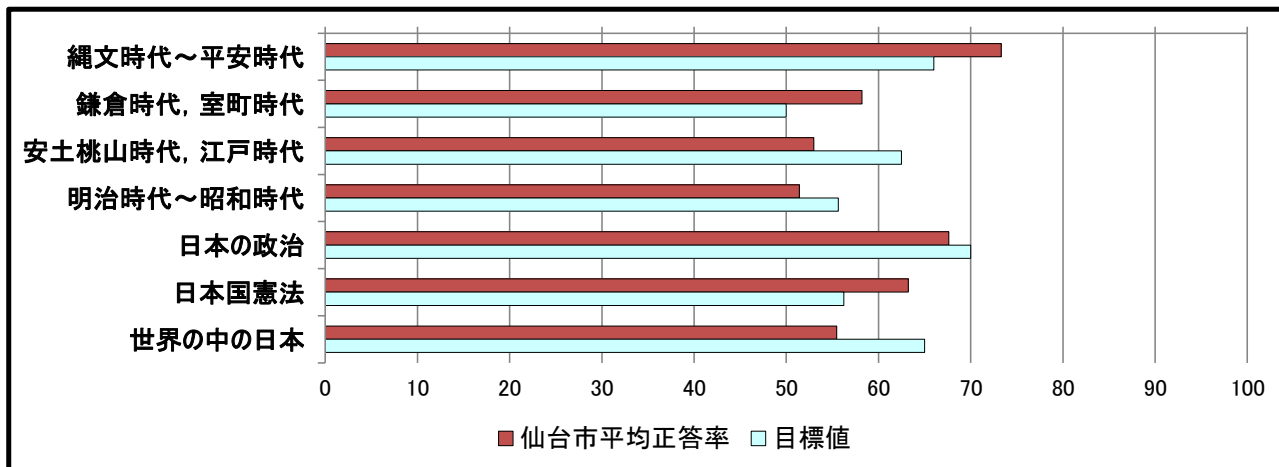
指定された文字数で書くことができたのは 50.2%、3 段落構成で文章を書くことができたのは 49.2%、自分の考えを明確に書くことができたのは 55.5% であった。これらのことから、与えられた条件で自分の考えを明確にして文章を書くことが十分に身に付いていないことがうかがえる。

指導に当たっては、いくつかの文章を読み比べて、自分が納得できる文章を選ばせ、その理由を説明する学習活動の際に、筆者の根拠の挙げ方等を参考にしながら、自分の考えを論理的に書かせるようにする。

【中学校 1 年生 社会】

分析結果

目標値 60.0% 市平均正答率 59.7% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値－5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値＋5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「縄文時代～平安時代」では、目標値を 7.3 ポイント上回っている。
- ② 「鎌倉時代, 室町時代」では、目標値を 8.2 ポイント上回っている。
- ① 「明治時代～昭和時代」の明治政府による富国強兵に関する設問で、目標値を 29.6 ポイント下回っている。無解答率が 42.7%と高いことから、明治時代における国内外の歴史的事象についての知識・理解に課題があると考えられる。
- ② 「世界の中の日本」の世界の国々の国旗についての設問で、目標値を 41.7 ポイント下回っている。類型外誤答が 39.5%と高いことから、国連と国旗との関連性についての理解に課題があると考えられる。

指導改善の方策

① 「富国強兵」に関連する言葉とその関係性を理解させるために

この設問では、明治政府が行った「国を豊かにするとともに強い軍隊を持つことをめざす」政策のうち、兵役や官営工場の様子が分かる二つの挿絵を基に、「富国強兵」と判断することが求められている。提示された二つの挿絵からは、20歳から23歳の男子が軍隊に入って日本国のために戦っている様子や、欧米の機械を導入した富岡製糸場の活気ある様子が瞬時に見て取れる。ところが、類型外解答率と無解答率を合わせると 74.5%になることから、「富国強兵」の語句そのものや意味を正しく理解していなかったものと推測される。

指導に当たっては、富国強兵とそのための諸改革・諸政策との関係性が明らかになるよう、資料を基に具体的に調べさせるようにする。さらに、なぜ軍を強くすることが国を豊かにすることにつながるのか、その意味を考えさせる時間を確保しながら語句の理解を深めていくことが必要である。また、学習した語句を積極的に活用して、自分の考えをまとめさせたり発表させたりする学習を継続することにより、知識の定着を図ってほしい。

② 生活との関わりを通して「国旗」に関連する言葉を理解させるために

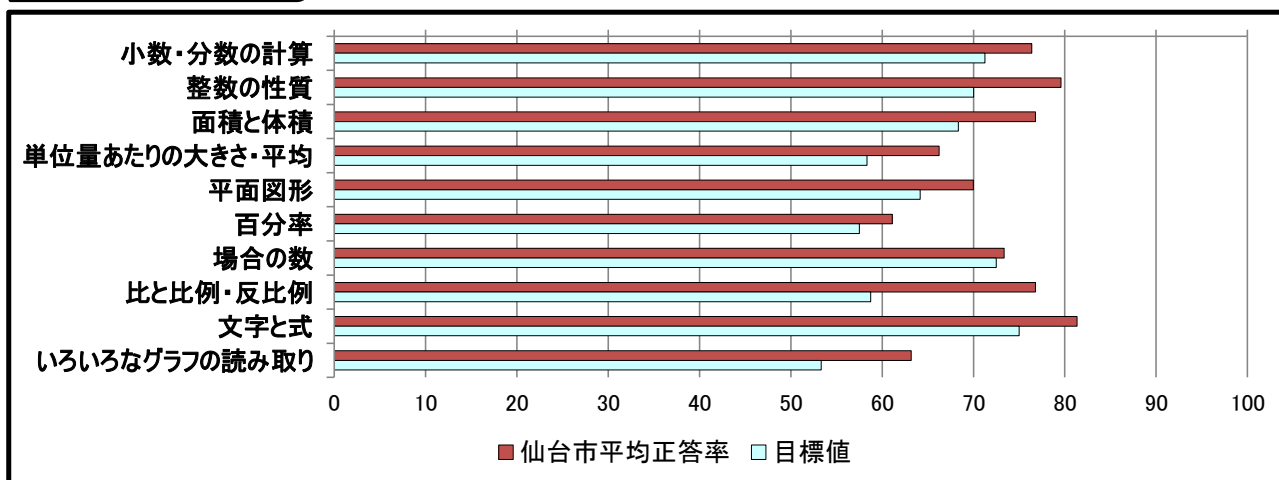
この設問では、ニューヨーク市にある国際連合本部前に並んでいる加盟国の国旗の写真と、日本、アメリカ、韓国、ブラジルの4カ国の国旗の挿絵を基に、それらが「国旗」であると想起できるかが問われている。国旗という語句については、小学校3年生から毎年教科書で取り上げられているにもかかわらず、正答率は 43.3%であり、目標値の85.0%を大きく下回っている。また、無解答率が低いことから、語句そのものが定着していなかった可能性も考えられるが、問題を正確に捉えられなかったものと推察される。

指導に当たっては、国旗や国歌について、その国の成り立ちや国民の願いと深い関係があることを考えさせることが大切である。また、学校生活における卒業式や入学式などの学校行事、日常生活におけるオリンピックやワールドカップなどで国歌が流れ、国旗が掲揚されている場面を想起させ、関心を持たせながら国旗や国歌を意識させていくことも大切である。

【中学校 1 年生 数学】

分析結果

目標値 65.1% 市平均正答率 72.8% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「整数の性質」では、目標値を 9.6 ポイント上回っている。
- ② 「比と比例・反比例」では、目標値を 18.0 ポイント上回っている。
- ① 「平面図形」では、目標値を 5.8 ポイント上回っているものの、対象の軸が何本あるかを求める設問において、目標値を 6.4 ポイント下回っており、線対称な図形の性質を基に、対象な軸を見付けることに課題が見られる。
- ② 「場合の数」では、目標値とほぼ同等であるが、組み合わせが何通りあるかを求める設問において、落ちや重なりのないように整理して考えることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 線対称な図形の性質を基に、対称な軸を見付けることができるように

この設問では、対応する 2 点を結ぶ線分は対称の軸によって垂直に 2 等分されることを基にして、図形の対象の軸を見付けることが求められる。図形によっては、対称の軸が複数ある図形があること、対称の軸によって分けられた図形は合同であることとの理解が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、図形を「切る」「折る」「回転させる」などの実際の操作を通して、線対称な図形の性質を理解させていくことが大切である。その上で、対称の軸が複数ある図形があることに気付かせ、対称の軸を見付けられるように指導したい。

② 組み合わせについて、落ちや重なりのないように整理して考えさせるために

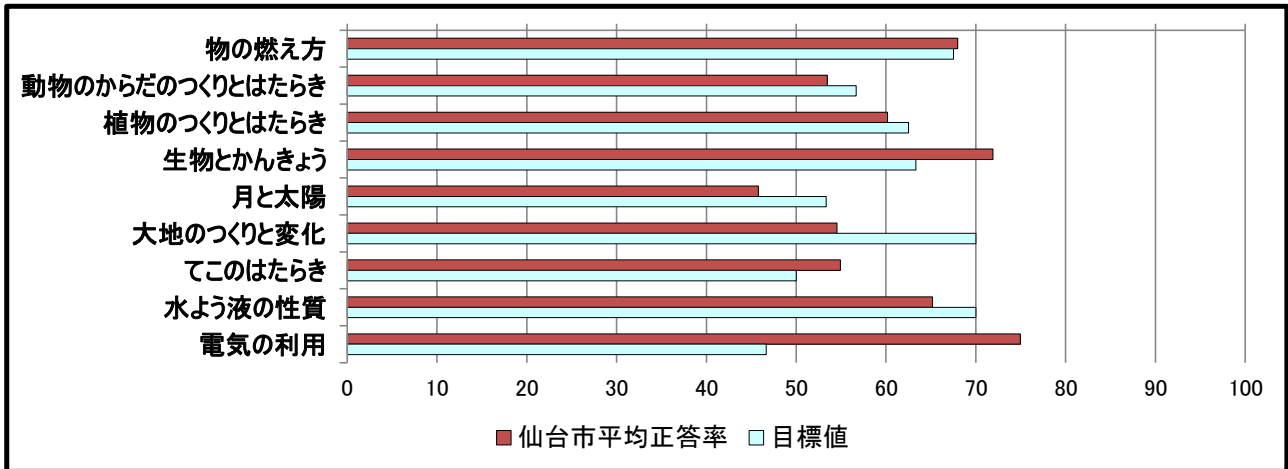
この設問では、組み合わせについて、落ちや重なりのないように整理して考えていくことが求められる。21.1%の児童が「12通り」と解答しており、「AとB」、「BとA」の組み合わせの重なりについて、理解が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、図や表などに表して具体的に整理して調べていく中で、組み合わせに重なりができてくることに気付かせたい。その上で、重複して数えたものを消したり、始めから重複するものを書かないようにしたり、加えて、図や表を用いて書き表す方法などについて考えさせる指導が重要である。

【中学校 1 年生 理科】

分析結果

目標値 60.0% 市平均正答率 60.5% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「生物とかんきょう」では、目標値を 8.6 ポイント上回っている。
- ② 「電気の利用」では、目標値を 28.3 ポイント上回っている。
- ① 「物の燃え方」では、火が燃えたあとの集気びんにろうそくを入れたときの様子を考える問題において、目標値を 17.5 ポイント下回っている。集気びんでろうそくを燃やしたあとの空気の変化の捉え方について課題がある。
- ② 「大地のつくりと変化」では、粒の大きさの違いから、堆積した層を推測する問題において、目標値を 40.6 ポイント下回っている。粒の大きいものから先に沈んで堆積する様子を観察する技能に課題がある。

指導改善の方策

① 集気びん内でろうそくを燃やしても酸素がすべて使われたのではないことを捉えさせるために

この設問では、物が燃えるときには空気中の酸素の一部が使われ、二酸化炭素が発生していることを理解しているかが問われている。ろうそくを燃やすことによって「酸素がすべて使われたので火が消えた」と誤答した割合が 40.5%であった。実験の前後での酸素の割合を理解し、「酸素の一部が使われたので火が消えた」と正しく解答できた割合は 42.5%であった。集気びん内でろうそくを燃やすと、空気中の酸素の一部が使われることについて正しく理解していないものと思われる。

指導に当たっては、集気びん内では、ろうそくの燃焼によって酸素がすべて使われたわけではないことを、測定結果とモデルから正しく捉えさせることが大切である。

② 粒の大きいものから順に積み重なることを理解させるために

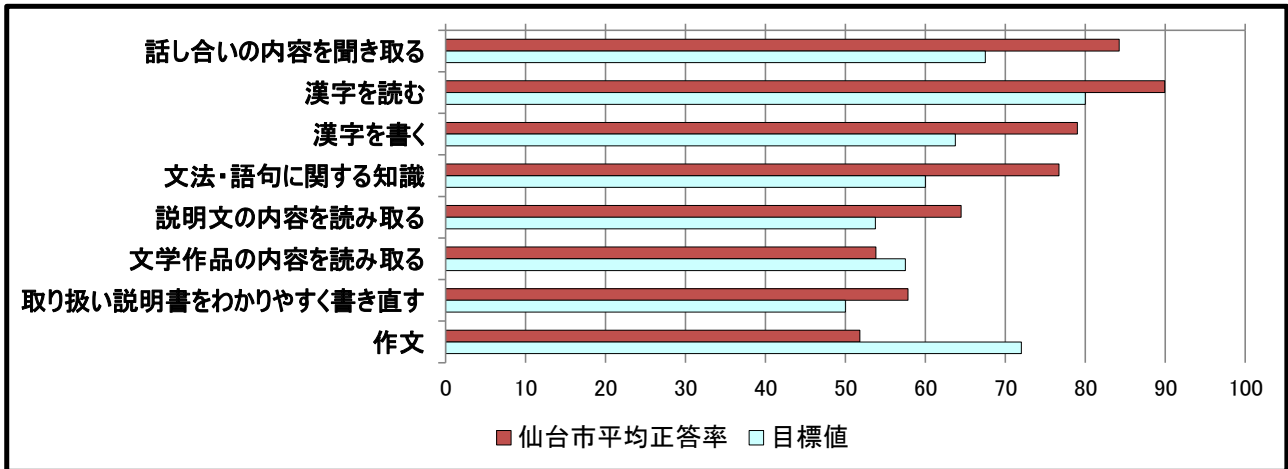
この設問では、水のはたらきによって土が流され、れき、砂、どろの順に層になって積み重なることを理解しているかどうか問われている。誤答分析から、れき、砂、どろの重なり方と逆のものを選んだ割合が合わせて 40.8%だった。層になることは理解していても、粒の大きいものから順に積み重なることを十分に理解していないと考えられる。

指導に当たっては、まず地層の観察を行う際に、れき、砂、どろ、火山灰などが層を作っていることを実感させたい。続いて、堆積実験を行う際には、実際の地層と同様に層になっていく様子をはっきりと観察できるように、土を流しこむ容器を工夫することが必要である。

【中学校2年生 国語】

分析結果

目標値 63.6% 市平均正答率 69.7% < 1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○: 成果 ●: 課題)

- ① 「話し合いの内容を聞き取る」では、16.7ポイント上回っている。
- ② 「文法・語句に関する知識」では、16.7ポイント上回っている。
- ③ 「説明文の内容を読み取る」では、目標値を10.7ポイント上回っている。
- ① 「文学作品の内容を読み取る」では、目標値と同等であるが、登場人物の心情を捉える設問では、目標値を9.0ポイント下回っている。登場人物の置かれた状況を踏まえて、行動、会話、情景描写に目を向け、心情を読み取る力に課題があると思われる。
- ② 「文学作品の内容を読み取る」の文章の表現の特徴を捉える設問では、目標値を13.1ポイント下回っている。解答が四つの選択肢に分かれており、正答を判断する力が足りなかったと考えられる。表現の特徴を意識させる指導が必要と思われる。

指導改善の方策

① 登場人物の行動、会話、情景描写に着目して心情を読み取らせるために

この設問では、主人公の心情を瑞希の言動に照らし合わせて読み取らなければならない。主人公の置かれた状況と瑞希の言葉を丁寧に読み取ることが求められる。

指導に当たっては、登場人物の置かれた状況を踏まえて、会話や直接的な表現だけでなく、行動、情景描写にも目を向けて、心情を丁寧に読み取るように指導していくことが必要である。

② 文章の書かれ方に目を向けさせ、表現の特徴を捉えさせるために

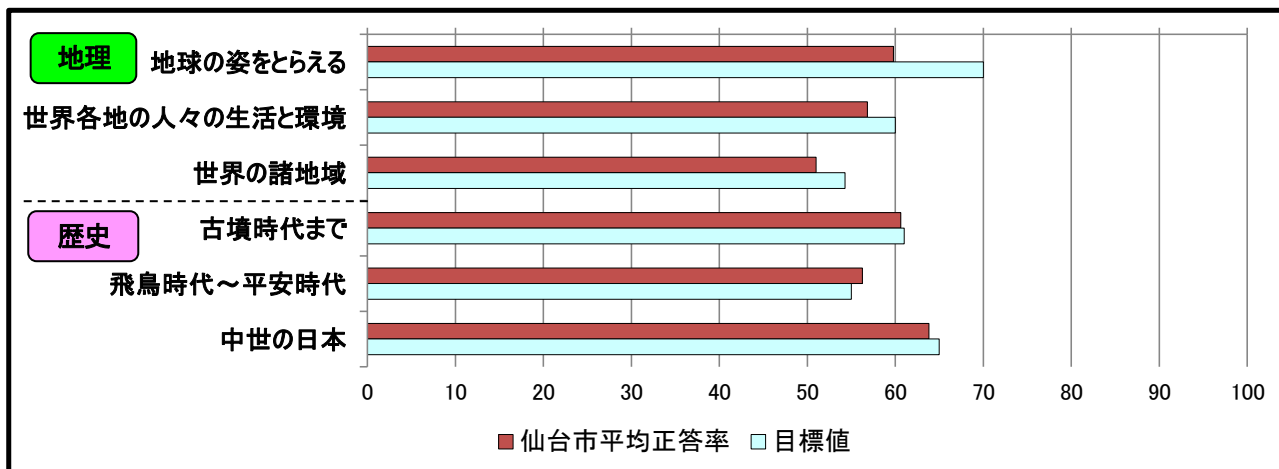
この設問では、主人公の気持ちの変化がどのように表現されているかを捉える力が求められている。この作品は、地方大会でチームメイトとの信頼関係が生まれた場面を回想し、全国大会に向けての気持ちが定まってく様子を、感覚の変化と関連付けて表現している。

指導に当たっては、表現の特徴に着目し、登場人物の行動、会話、情景描写と併せて主人公の気持ちの変化がどのように表現されているか捉えられるような指導をしていくことが必要である。

【中学校2年生 社会】

分析結果

目標値 60.0% 市平均正答率 57.4% < 1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「世界各地の人々の生活と環境」では、目標値と同等であるが、資料からフィジーの宗教を把握する問題では、目標値を12.5ポイント上回っている。
- ② 「飛鳥時代～平安時代」では、目標値と同等であるが、複数の資料を基に平安時代の朝廷や貴族について考察する問題で目標値を12.1ポイント上回っている。
- ① 「地球の姿をとらえる」では、目標値を10.2ポイント下回り、世界地図の特徴の理解に課題が見られる。
- ② 「中世の日本」では、目標値と同等であるが、承久の乱の設問で目標値を19.4ポイント下回り、承久の乱の歴史的事象の意味の理解に課題がある。

指導改善の方策

① 世界地図の特徴の理解を基に距離や緯度・経度を正確に読み取らせるために

この設問では、世界地図の特徴の理解を基に距離や経度を読み取る力が求められる。正距方位図法の特性や緯度・経度の仕組みから正答を選択肢から選ぶ問であったが、誤答率は64.1%と高かった。なお、誤答については、残る選択肢に解答が分散する傾向があり、図法への理解が不十分であると言える。

指導に当たっては、最初に地図を球面から捉えさせてから実際に地図を作成させるようにする。次に教科書で取り上げられている各図法の特性や利点、欠点を地球儀との比較を通して気付かせる。そのうえで、各図法の特徴に基づいた活用ができるよう指導を充実させたい。

② 歴史の流れの理解を基に鎌倉時代の政治の動きを理解させるために

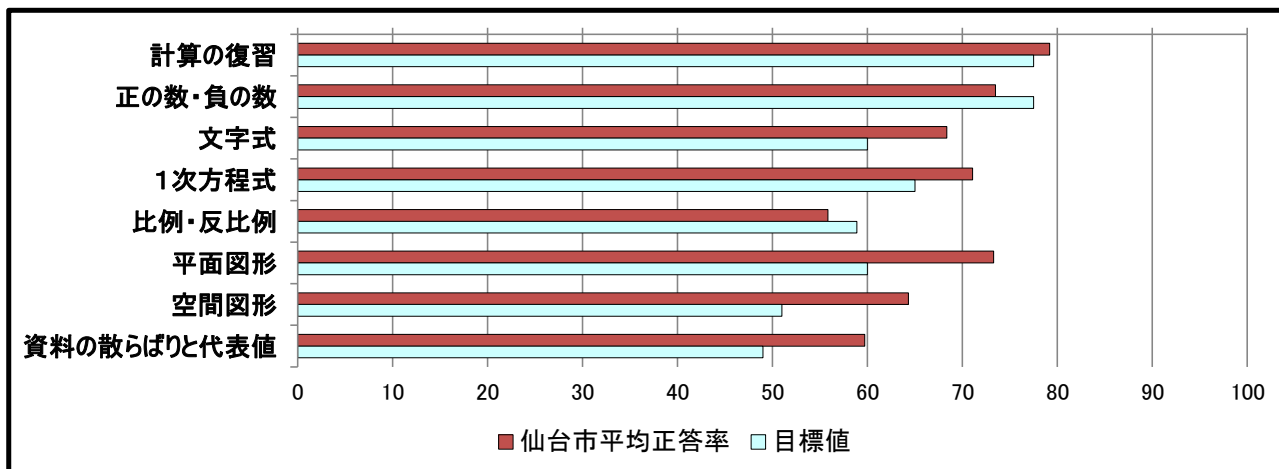
この設問では、承久の乱の歴史的事象の意味について理解しているかが問われている。誤答では、選択肢2の「他の武家からの反発を受けていた平氏を都から追い出し、壇ノ浦（山口県）まで追いつめて、ほろぼしたこと。」が39.4%で最も多い。選択肢1、4と解答する割合も1割を超えており、正しく理解していない生徒が多いことがうかがえる。選択肢1、2、4のそれぞれが、いつの時点の出来事かを時系列で理解しているか、あるいは承久の乱について正しく理解していれば正答できた問題である。

指導に当たっては、小学校での既習事項を押さえさせた上で、「鎌倉幕府は、主に東国に影響力を持っていたが、源氏が滅んだ後、源頼朝の妻北条政子と執権となった父北条時政が実権を握った」「承久の乱で後鳥羽上皇は、天皇中心の政治を取り戻すために立ち上がったが、失敗し隠岐国へ流された」「その後、幕府の全国支配が西国にも及び、執権政治が確立した」ことを、その時代の特色と関連付けながら理解できるように指導したい。

【中学校2年生 数学】

分析結果

目標値 60.6% 市平均正答率 65.2% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○:成果 ●:課題)

- ① 「文字式」では目標値を8.4ポイント、「1次方程式」では6.1ポイント、「平面図形」と「空間図形」ではともに13.3ポイント、「資料の散らばりと代表値」では10.7ポイント上回っている。
- ① 「正の数・負の数」では、正負の数の大小関係を不等号を使って表す設問で、目標値を17.6ポイント下回っている。負の数は、絶対値が大きいほど小さくなることの理解や小数と分数の大小関係を比較する方法の定着に課題が見られる。
- ② 「比例・反比例」では、グラフから水そうの形を判断する設問で、目標値を27.2ポイント下回っている。グラフから情報を読み取ること、その情報から具体的事象をイメージすることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 正負の数の大小関係を不等号を使って正確に表すことができるためには

この設問では、正負の数の大小関係を不等号を使って表すことがねらいとされている。約48%の生徒が誤答または無解答となっている。その要因として、負の数は絶対値が大きいほど小さくなることの理解や、小数と分数の大小関係を比較する方法の定着が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、数の表し方を統一してから比較することを確実におさえ、数直線を活用することで数の大小を視覚的に捉えることができるように指導することが必要である。

② 具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、必要な情報を問題解決に用いることができるためには

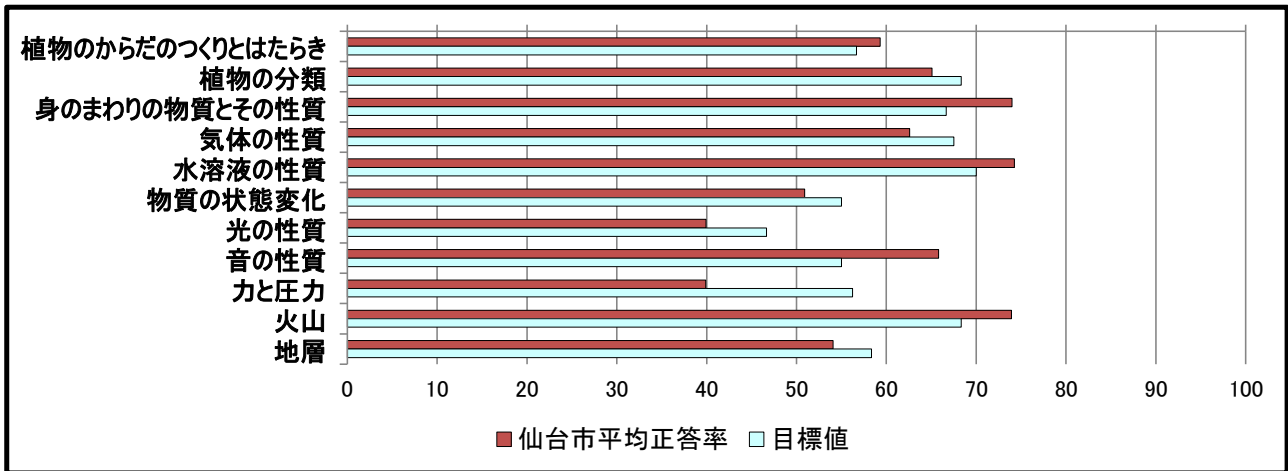
この設問では、容器に水を入れるときの時間と深さの関係を表したグラフと直方体の容器を関連付けて捉えることが求められている。誤答率が70.6%と高く、誤答分析から、グラフから情報を読み取る力が不足していること、問題文を読んで具体的な事象をイメージする力が不足していることなどが考えられる。

指導に当たっては、課題を解決するために必要な情報をグラフから丁寧に読み取る練習を十分に行うことで、グラフを読み取る力の育成を図ることが大切である。さらに、水そうなどの容器に毎分一定の同じ量の水を入れる問題においては、様々な形の容器に水を入れる操作活動を行い、具体的な事象とグラフから読み取った情報とを関連させることで、具体的にイメージできるようにしたい。

【中学校 2 年生 理科】

分析結果

目標値 60.0% 市平均正答率 58.7% < 1 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「身のまわりの物質とその性質」では、目標値を 7.3 ポイント上回っている。
- ② 「音の性質」では、目標値を 10.8 ポイント上回っている。
- ③ 「火山」では、目標値を 5.6 ポイント上回っている。
- ④ 「力と圧力」では、力を矢印で表す問題において、目標値を 31.2 ポイント下回った。また、ばねに加えた力の大きさとばねののびとの関係を表すグラフの読み取りに関する問題においては、目標値を 23.0 ポイント下回り、課題が見られた。
- ⑤ 「植物の分類」では、被子植物を双子葉類、単子葉類に分類する問題において、目標値を 26.8 ポイント下回り、課題が見られた。

指導改善の方策

① 力(大きさ・向き・作用点)を矢印を用いて表すことができるようにするために

この設問では、図から「おもりがばねを引く力」を矢印で表すことが求められている。正答率は全体の 18.8%で、おもりの中心から矢印を描いている生徒も含め、作用点の位置を正しく示していない生徒は全体の 42.6%に及んでいる。力は目に見えないため、生徒にとっては非常に捉えにくい。また、人間が力を加えることに限定して考え、静止している物体に働く力をイメージできなかった生徒も多く見られる。

指導に当たっては、単に作図の技能を習得させることだけではなく、実際の現象から、物体に力がどのように働いているのかを考えることができるよう指導の工夫を図りたい。

② 被子植物を分類することができるようにするために

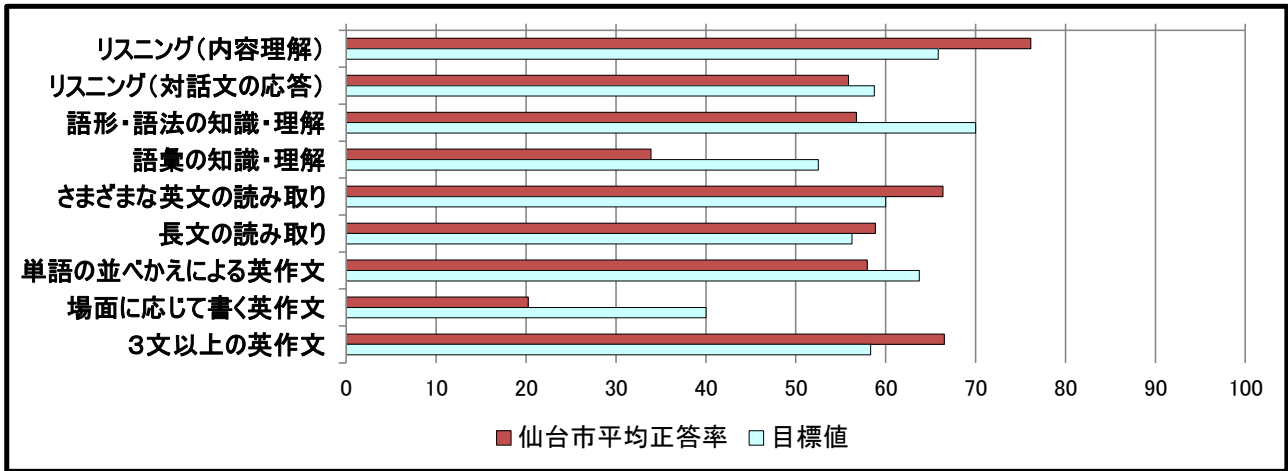
この設問では、被子植物を双子葉類と単子葉類に分類することが求められている。生徒は被子植物の根・茎・葉などの器官の特徴について前章で学習している。しかし、この特徴が授業で扱った植物以外のものにも当てはまり、仲間分けをする観点になるということに気付いていない生徒も多く見られる。

指導に当たっては、既習事項である被子植物の特徴に注目させながら、身近な野菜などの植物を題材に仲間分けを行わせ、これを基に被子植物が双子葉類と単子葉類という 2 つのグループに分類できるということを見いださせたい。

【中学校2年生 英語】

分析結果

目標値 59.9% 市平均正答率 57.6% < 1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「リスニング(内容理解)」では、目標値を10.4ポイント上回っている。
- ② 「3文以上の英作文」では、目標値を8.2ポイント上回っている。
- ① 「語彙の知識・理解」では、目標値を18.6ポイント下回っている。対話文の中の空欄に当てはまる単語を正確に書くことに課題がある。
- ② 「場面に応じて書く英作文」では、目標値を19.8ポイント下回っている。対話の流れを理解し、適切に質問文を書くことに課題がある。

指導改善の方策

① 単語を正しく覚えることができるようにするために

この設問では、learn を正しく書くことが求められている。誤答分析から、つづりの誤りが1文字ある解答は2.4%、それ以外の解答は50.8%、無解答は36.3%であり、単語を正しく書くことに課題がある。

指導に当たっては、新出単語について、意味を正しく理解し、単語のつづりを認識させるために、イラストなどを用いて目と耳で覚えるなど、段階を追って理解させていくことが大切である。また、単語を滑らかに言えるようになるまで発音を練習し、意図的、継続的に書いて正しく覚えることが必要である。授業の導入などで、誰もが楽しく語彙を増やすことができる様々な活動を取り入れるなど、使える楽しさを味わわせながら、語彙の知識・理解を深めていくことが大切である。

② 対話の流れを理解し、適切に質問文を書くことができるようにするために

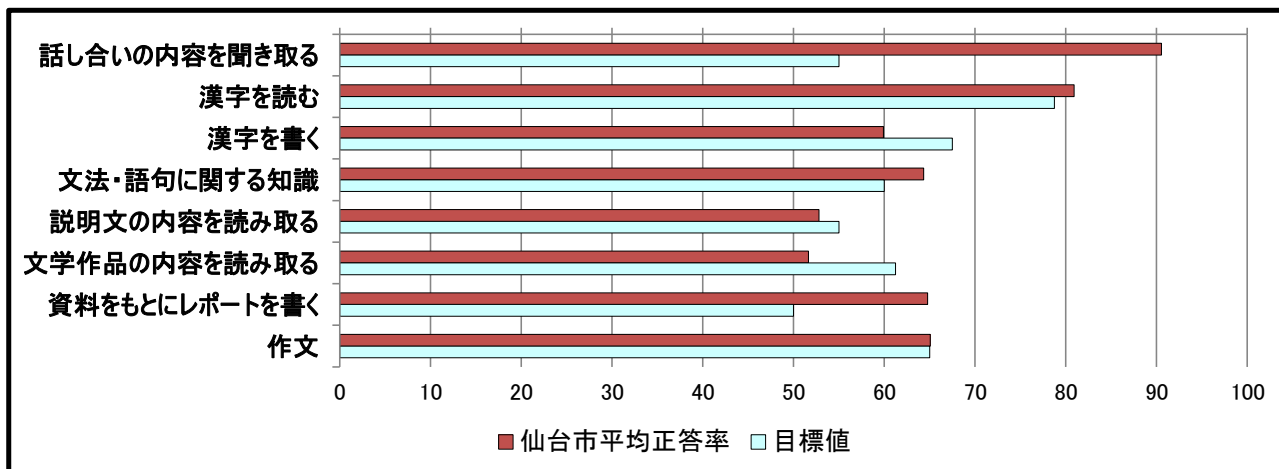
この設問では、Shiori と Jim の対話を読み、場面設定を理解し、最後の Jim の応答から Shiori がする質問を予想し、適切に書くことが求められている。正答率が16.0%と目標値よりも24ポイント下回っていること、また、無解答率が36.3%であることから、質問文を書く力が十分ではないと考えられる。同時に、設問9(2)についても、目標値を15.6ポイント下回っている。以上のことから、英文を書く力だけではなく、対話を読んで場面設定を理解する力も不十分であると考えられる。

指導に当たっては、授業の warm up や教科書の内容理解等の場面で、教師が質問して一問一答で生徒に答えさせるだけでなく、答えの文から疑問文を考えさせたり、生徒同士が質問・応答したりする場面を段階的に設定する必要がある。また、活動後に、音声言語は文字として書かせ、教師が添削することを積み重ねることにより、英文を書く力を身に付けさせたい。

【中学校3年生 国語】

分析結果

目標値 62.0% 市平均正答率 66.3% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「話し合いの内容を聞き取る」では、目標値を 35.5 ポイント上回っている。
- ② 「文法・語句に関する知識」では、目標値を 4.3 ポイント上回っている。
- ③ 「資料をもとにレポートを書く」では、目標値を 14.8 ポイント上回っている。
- ④ 「文法・語句に関する知識」では、市平均正答率が目標値を 4.3 ポイント上回っているが、敬語についての理解の設問において、目標値より 11.7 ポイント下回り、正しい敬語の使い方が十分に身に付いていないと思われる。
- ⑤ 「文学作品の内容を読み取る」では、目標値を 9.7 ポイント下回っている。場面の展開や表現の仕方を捉える設問では、目標値 65.0 に対して市平均正答率 19.5 と大きく下回っている。語り手の視点の切り替えに気付くことができず、正答にたどり着けなかったと考えられる。

指導改善の方策

① 正しい敬語の使い方を身に付けさせるために

この設問では敬語の正しい使い方についての理解を求めている。「おいでください」を選択した誤答が多い要因として、授業内では「いらっしゃる(尊敬語)」や「拝見する(謙譲語)」のような特定の形に変化する用例を多く扱っているため、「お～になる」や尊敬の意味としての「～れる」のような言葉を敬語として認識していなかったことが考えられる。

指導に当たっては、「お～になる」や「～れる」を用いた文例で、敬語の特徴と敬意の対象を理解させていくことが必要である。その上で、実生活において、敬語を使っていくために、ある場面を想定した敬語の使い方についての正誤を考えさせ、敬語の持つ働きを理解させるような指導をする必要がある。

② 場面の变化と視点の切り替えを関連付けて読ませるために

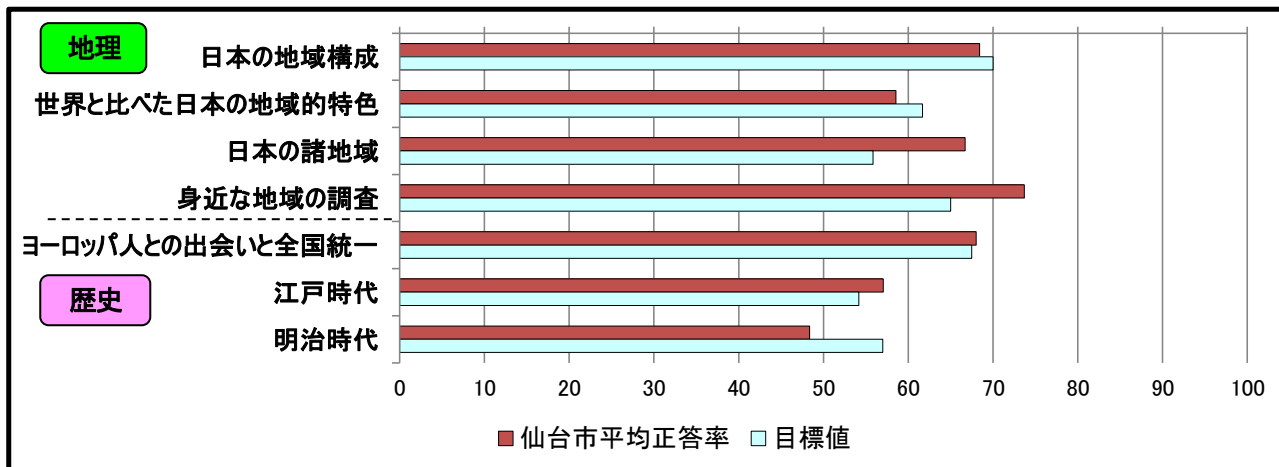
この設問では文学的文章における場面の展開や表現の仕方を捉える力が求められている。冒頭、この作品の語り手の視点は登場人物の亜矢である。そこから登場人物の奏に視点が切り替わっている。教科書に掲載されている文学教材において語り手が切り替わるものは少ない。そのため、場面の变化と視点の切り替えを関連付けて読み取るといった学習経験が乏しく、正答にたどり着けなかったと考えられる。

指導に当たっては、登場人物の心情理解はもちろんのこと、誰の視点で物語が展開しているのか、構成や表現の特徴について、具体的な部分を取り上げて考えをまとめていく指導をすることが必要である。

【中学校3年生 社会】

分析結果

目標値 60.0% 市平均正答率 61.5% < 2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「日本の諸地域」では、目標値を10.9ポイント上回っている。
- ② 「身近な地域の調査」では、目標値を8.7ポイント上回っている。
- ① 「日本の諸地域」の複数の資料を基に考察する設問においては、目標値を11.1ポイント下回り、複数の資料から読み取ったことを基に考えたり、判断したりすることに課題が見られる。
- ② 「明治時代」では、樺太・千島交換条約に関して、当時画定した国境を指摘する設問において、目標値を13.4ポイント下回り、樺太や千島列島の位置についての理解に課題が見られる。

指導改善の方策

① 複数の資料を関連付けて思考し、表現させるために

この設問では、日南市の産業の特色を複数の資料から考察する力が求められる。誤答分析では、資料イ～エ、それぞれの読み取りが不十分で、誤った読み取りをしている解答が見られる。また、正答である選択肢1も宮崎県と日南市の農家数の減少率について比較し、判断する力が求められている設問である。

指導に当たっては、日本の諸地域の学習の際に、複数の資料を用いて、地域ごとの特色を日本全体と比較させ、資料を正しく読み取る力を高めさせたい。

② 地図から位置を正確に読み取らせるために

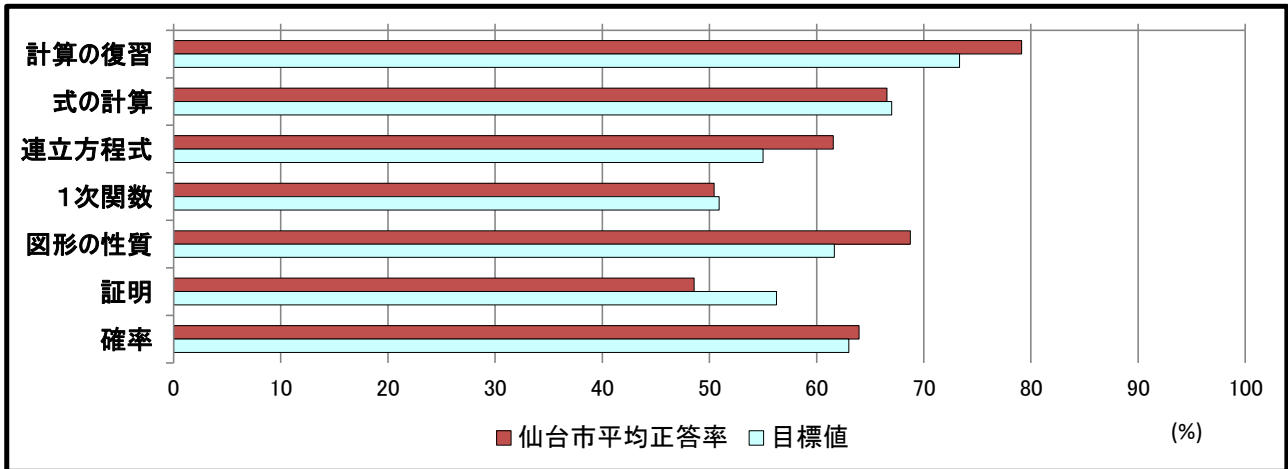
この設問では、樺太・千島交換条約の内容を読み取り、地図から当時の国境を正しく判断する力が求められている。誤答分析から、樺太の位置や千島列島の位置が理解できていない生徒が多いことがうかがえる。

指導に当たっては、地名が出てきた場合には、必ず地図帳や掛け地図などを用いて位置を確認させることが重要である。さらに、地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野においても同様の指導を繰り返し、位置を確認するという習慣を生徒に身に付けさせたい。

【中学校3年生 数学】

分析結果

目標値 58.9% 市平均正答率 59.8% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「連立方程式」では、目標値を6.6ポイント上回っている。
- ② 「図形の性質」では、目標値を7.0ポイント上回っている。
- ① 「式の計算」では、2つの文字を含む式を簡単にして式の値を求める設問で、目標値を14.5ポイント下回っており、文字を含む式の計算の技能に課題がある。
- ② 「証明」では、与えられた条件から、2つの角が等しいことを正しく説明する設問で、目標値を22.4ポイント、下回っている。与えられた条件から正しく説明すること、さらに、証明を振り返って新たな図形の性質を示すことに課題が見られる。

指導改善の方策

① 2つの文字を含む式を簡単にしてから、式の値を求めることができるようにするためには

この設問では、文字を含む式を簡単にしてから、式の値を求めることをねらいとしている。約6割の生徒は正解できているが、4割近い生徒が誤答又は無解答となっている。その要因として、「式の値を求める」ことの意味が理解できていないこと、式を整理する段階で、かっこをはずすときの符号のミスなど、計算技能が不足していること、また式を簡単にせず、与えられた式にすぐに数を代入するなど、知識・理解が十分に身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、「式の値を求める」ことの意味の確認を適時行い、多項式と数の乗法の計算の技能を高める指導を繰り返し行うようにする。さらに、式の中の文字に数値を直接代入するよりも、式を簡単にしてから代入するほうが値を求めやすいことを、実感を伴って理解させるようにする。そのために「 x は赤」「 y は青」のように色別で分かりやすく視覚化し、どの文字にどの数を代入するのかを明確にするとともに、数値を代入する操作の箇所が少なくなることが実感できるように工夫していきたい。

② 与えられた条件から、2つの角が等しいことを正しく説明することができるようにするためには

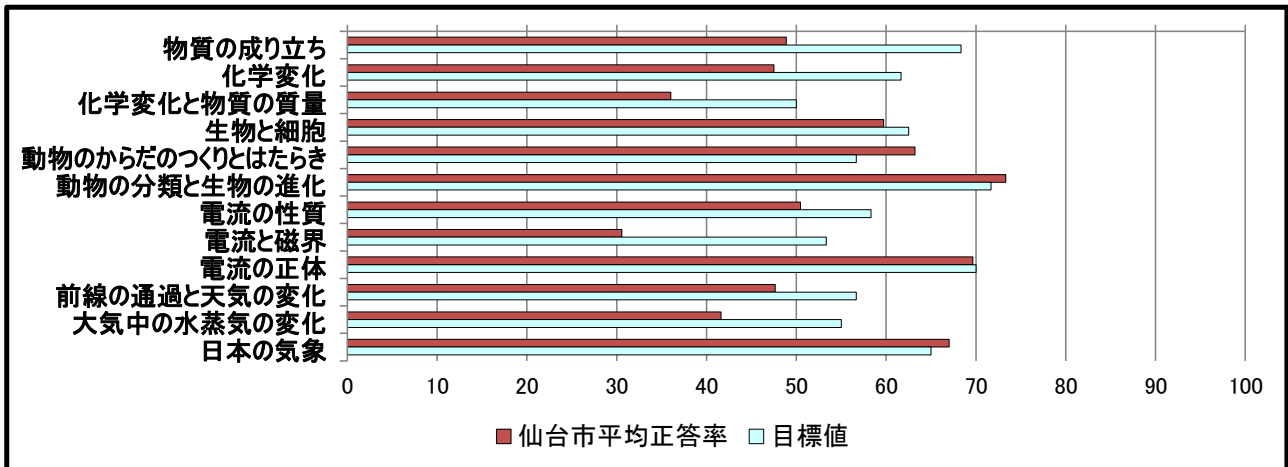
この設問では、証明において与えられた条件から2つの角が等しいことを正しく説明し、その証明を振り返り、 $AB \parallel CE$ であることと、その理由を示すことが求められている。正答率は、3割に満たなかった。誤答分析から、 $\triangle ABC$ と $\triangle ADE$ が正三角形であることから、どちらも『 $60^\circ - \angle DAC$ 』の大きさになることに気付かなかったこと、また、気付いたとしても、どのように表現して証明を完成させればよいのか分からなかったことが考えられる。さらに、証明を振り返り、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理し、新たな性質を見いだす力が不足していたと考えられる。

指導に当たっては、2つの正三角形における証明問題で、角に色を付けて「どの角とどの角を考えているのか」「2角を足せばよいのか引けばよいのか」等、証明の根拠を視覚的に分かりやすくすることが大切である。また、証明が完成した後、その証明を振り返る習慣を定着させるような指導の工夫も必要である。

【中学校3年生 理科】

分析結果

目標値 60.1% 市平均正答率 53.1% < 2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を下回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「動物のからだのつくりとはたらき」では6.5ポイント、また「動物の分類と生物の進化」では、1.6ポイント目標値を上回っている。
- ② 「日本の気象」では、2.0ポイント目標値を上回っている。
- ① 「電流の性質」では、電熱線2本を並列に接続したときの流れる電流の大きさを求める問題において、目標値を8.5ポイント下回り、課題が見られた。
- ② 「前線の通過と天気の変化」では、温暖前線が通過する時の天気の変化を予想する問題において、目標値を13.1ポイント下回り、課題が見られた。

指導改善の方策

① 複数の抵抗を用いた回路に流れる電流の規則性を見いだすことができるために

この設問では、複数の抵抗器を用いた回路に流れる電流の大きさを見いだすことが求められている。正答率は全体の31.5%であり、並列回路の各部分を流れる電流の大きさについて正しく考えることができない生徒が全体の67.3%に及ぶ。回路を流れる電流は目で見ることができず、大きさは回路に働く電圧や回路中の抵抗の大きさによって決まることから、生徒にとって非常に捉えにくいものと考えられる。

指導に当たっては、「回路と電流・電圧」の導入において、複数の回路中の豆電球の明るさの違いから、回路に流れる電流の大きさを定性的にイメージ化し、その違いの要因について考えることで、課題を見いださせたい。また、見いだした課題を今後の「電流・電圧と抵抗」の学習において、解決していくことで、理解の深化を図りたい。

② 前線が通過するときの天気の変化を予想させるために

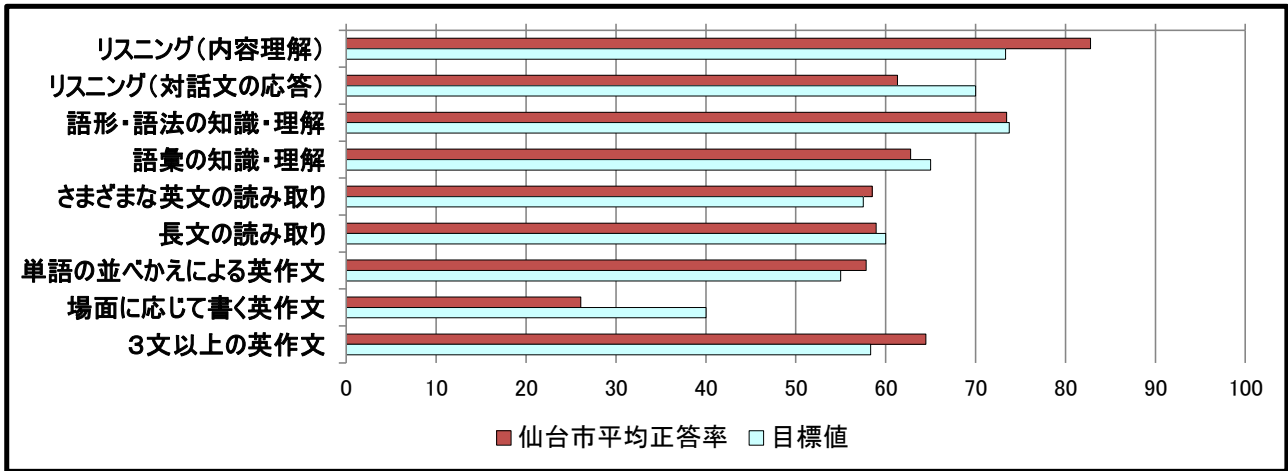
この設問では、天気図を読み取り、温暖前線が通過するときの天気の変化を予想することが求められている。30.7%の生徒が「積乱雲が発達し、強い雨が短時間に降る」、12.0%の生徒が「積乱雲が発達し、あまり強くない雨が長時間降り続く」と解答していることから、5割を超える生徒が前線と発達する雲の種類や雨の降り方との関連付けが不十分であることが分かる。この内容は、気温、湿度など多くの気象要素と天気の変化などを、暖気や寒気と関連付けて理解しなければならず、生徒にとっては捉えにくいものである。

指導に当たっては、温暖前線と寒冷前線が通過する際の時間ごとの観測値(気象要素)をグラフ化し、天気図の変化と比較することで、前線の通過と気象要素との関係を見いださせたい。

【中学校3年生 英語】

分析結果

目標値 63.4% 市平均正答率 63.8% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値とほぼ同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「リスニング(内容理解)」では、目標値を9.5ポイント上回っている。
- ② 「3文以上の英作文」では、目標値を6.2ポイント上回っている。
- ① 「リスニング(対話文の応答)」では、目標値を8.7ポイント下回っている。対話の流れを理解し、適切に応答することに課題がある。
- ② 「場面に応じて書く英作文」では、目標値を13.9ポイント下回っている。正答率が3割に満たず、無解答率も3割を越えている。英語で質問する文を正しく書くことに課題がある。

指導改善の方策

① 話の流れを理解して、適切な応答ができるようにするために

この設問では、2人の対話の内容を聞き取り、話者が発する質問に対して、空所に入る適切な応答を選ぶことが求められている。正答率は、目標値より14.1ポイント下回っている。また、設問2(1)、(2)についても、正答率が目標値を下回っていることから、対話の流れを理解した上で、適切に応答することに課題があると考えられる。

指導に当たっては、一問一答のQ&Aだけでなく、身近な話題について、対話の流れを意識しながら、やり取りを続けさせたあと、同じ話題の対話文を提示して話者が発する質問に対する応答を自分たちがした対話を想起しながら答える活動を継続的に行うことが大切と考える。

② ねらいにそって聞きたいことを英語で質問する文を正しく書かせるために

この設問では、対話の内容を読み取り、空欄に入る適切な4語以上の疑問文を正しく書くことが求められている。正答率は目標値を16.1ポイント下回り、無解答率は31.0%である。使用する必要な単語や助動詞は対話文中に与えられているにもかかわらず、正答率が低いことから、生徒は適切な疑問詞もしくは質問する文の形を十分に理解していないために、解答ができていないものと考えられる。

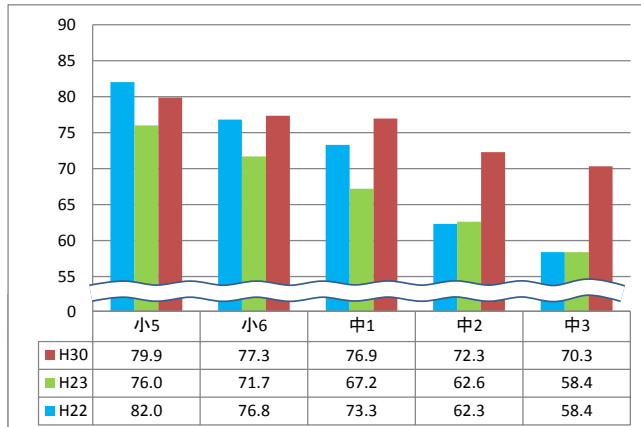
指導に当たっては、授業中の質問は教師が与えることが多いことが想定されるが、質問文を生徒自身に作成させる場面を増やすなど、使用頻度を高めることが大切である。教師対生徒のやり取りだけでなく、生徒同士の活動を充実させることで、質問をしたり、適切に答えたりする力を高めていくようにする。

平成 30 年度 仙台市生活・学習状況調査の分析結果と指導改善の方策

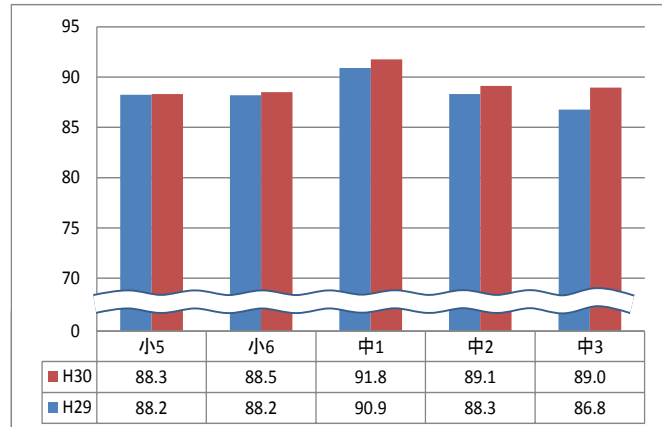
【分析結果 1】

「難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている」児童生徒が小学校 6 年生～中学校 3 年生で増えている。

【68】難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている。



【26】家の人は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。



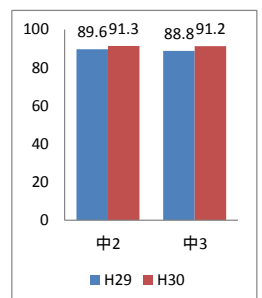
改善のポイント

子供たちの頑張っていることを認め、自己有用感・自己効力感を高めることでチャレンジ精神を育てましょう。

□ グラフから読み取れること

【68】「難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている」という項目において、小学校 6 年生以上の学年で震災以前に比べて、数値が増加している。また、【6】「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」や【26】「家の人は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」の数値も増加していることから、自分の可能性や取組について、大人から認められることで自信を持って挑戦する態度が醸成されていると考える。

【6】先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。



□ 指導改善の方策

○ 児童生徒が他者とのかかわりの中で自信を獲得できる工夫を

授業や学校行事、部活動、地域でのボランティア活動などを通して、児童生徒の取組について共感的に認めたり、励ましたりする場面や自分の行為が人の役に立っていることを実感させる体験を意図的に設けることが大切である。また、道徳や自分づくり教育を通して他者を大切にする気持ちを育みながら、集団の一員としての自信や誇りを獲得させることで、困難に立ち向かう挑戦心を育てるようにしたい。

○ 児童生徒が自分自身で成長を実感できる学習環境づくりを

各教科、教科外等、様々な場面における児童生徒の変容などについて学校内で情報を共有し、結果よりも児童生徒の取組の過程を認めるようにする。また、うまくいかなかった取組については、原因を一緒に振り返る機会を作り、再挑戦させるなどして、児童生徒が成長を自分自身で実感できるような学習環境を作ることが肝要である。

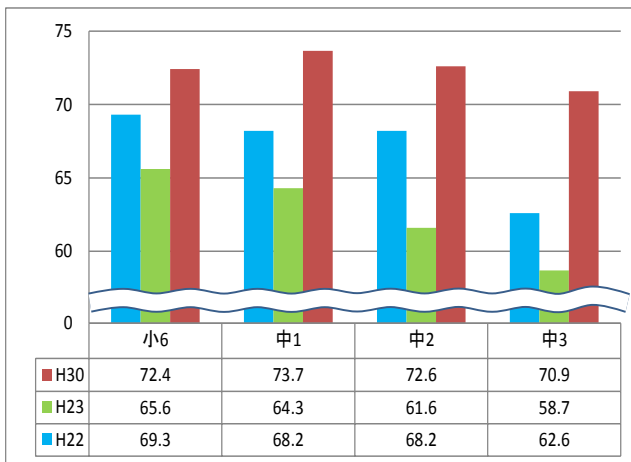
☆ ご家庭では ☆

挑戦性を育むためには、自信を持たせ、自己有用感・自己効力感を高めることが有効です。お子さん自身に、目標や努力する点、工夫する点を考えさせて、兄弟姉妹あるいは友達との比較ではなく、その子自身の成長軸に沿って認めることが大切です。お子さんの言動に共感して認めることで自信を持たせたり、最後までやり抜くことの大切さを伝えたりすることで、自分の考えや行動に自信を持ち、更に高い目標に向かって挑戦しようとする心が育ちます。

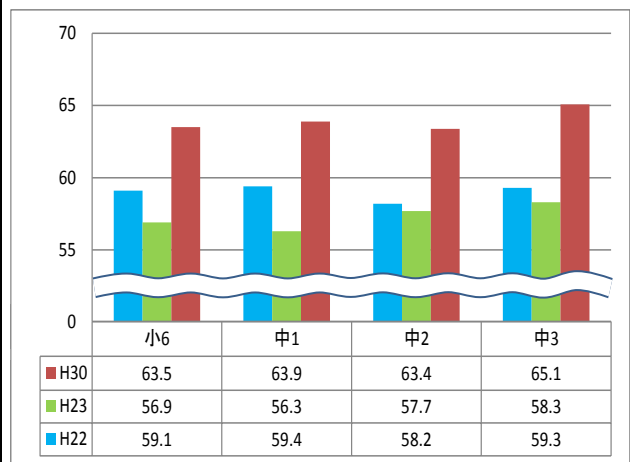
【分析結果 2】

「自分には、良いところがあると思う」児童生徒や、「みんなと意見が違っていても、自分の意見を話す」児童生徒が、小学校6年生～中学校3年生で増えている。

【64】自分には、良いところがあると思う。



【69】みんなと意見が違っていても、自分の意見を話す。



改善のポイント

授業では、お互いの良さを伝え合ったり、考えを交流したりする活動を積極的に取り入れ、自分に自信を持ち、自分の考えを積極的に発言できる児童生徒の育成を目指しましょう。

□グラフから読み取れること

【64】「自分には、良いところがあると思う」という自己肯定感に関する項目において「そう思う、どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒の数が、震災直後と比べ、小学校6年生～中学校3年生で増加している。また、【69】「みんなと意見が違っていても、自分の意見を話す」、「学級では、自分の良いところを認めてもらっていると思う」と回答した児童生徒も、学年が上がるにしたがって増加している。教師が児童生徒の良さや可能性を認めたり、「たく生き授業プラン」等を活用し、自他の良さに気付くことができるようにしたりすることにより、自信を持って自己を表現することにつながったものと考えられる。

□指導改善の方策

○児童生徒がお互いの「良いところ」を伝え合う活動をする

「たく生き授業プラン集*1」の中にある「みつめる力（自己肯定感）」を育てる授業プランには、他者から「今まで気付かなかった自分の良さ」を伝えてもらう活動がたくさん紹介されている。児童生徒は友達から自己の存在を認められ、褒められることで、自己肯定感を向上させ、自分らしく成長しようとする。継続的に行うとより効果が期待できる。

○お互いの考えを交流させることで、「見方の多様さ」に気付かせる

「たく生き授業プラン集」の中にある「いかす力」を育てる授業プランには、「ディベート」や「アサーション・トレーニング」等の手法を取り入れた活動がいくつか紹介されている。活動の中で、お互いの価値観について尊重し合う経験を積むことで、積極的に自分の考えを発言する態度やより良い人間関係が育まれることが期待される。全ての教科・領域に取り入れたい活動である。

☆ご家庭では☆

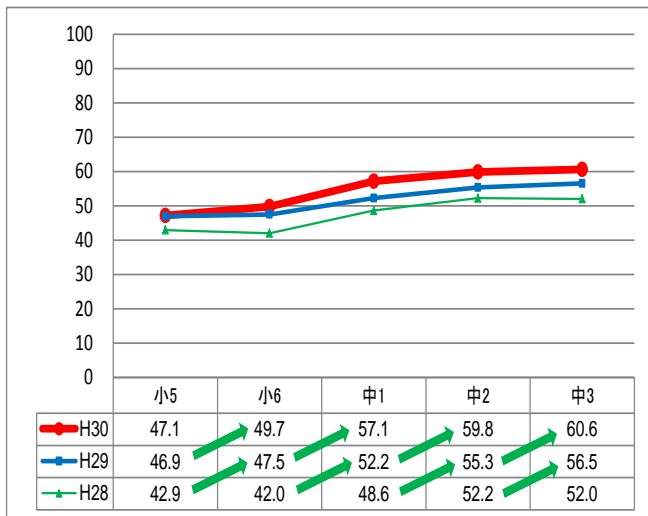
自己肯定感と主張性の間には、強い相関関係が見られます。そこで、「子供は、褒められて育つ」とよく言われることから、結果ではなく、頑張っている姿を見逃さずに褒めるようにしたいものです。お子さんは自信を持ち、より自分らしさを発揮しようとしています。また、常に「あなたは どう思う？」と問いかけ、子供の意見を尊重しながら関わり合うことで、主体性を持ち、自分で考える態度も育っていきます。

*1 「たくいき授業プラン集」:「たくましく生きる力育成プログラム 授業プラン集」のこと。将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力である「たくましく生きる力」(かかわる力、みとおす力、いかす力、うごく力、みつめる力)を育成するための授業プラン集。

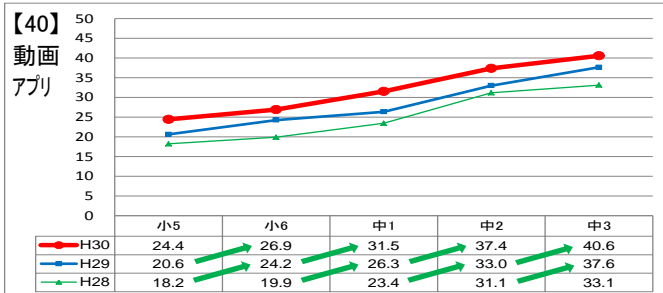
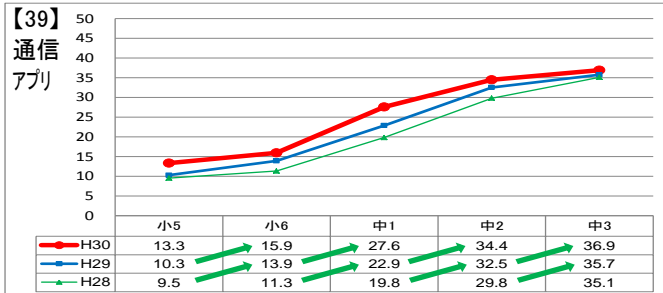
【分析結果 3】

携帯・スマホの使い方の約束事を家族と話し合っている一方で、「勉強中のスマホ」が増加傾向にある。

【34】携帯・スマホの使い方の約束について、家の人と話し合っている。



【39】【40】勉強中にスマホなどで次のアプリを使うことがある。



改善のポイント

スマホ利用についての約束事やルールを、子供と保護者と一緒に考えてみましょう。

□ グラフから読み取れること

【34】「携帯・スマホの使い方の約束について、家の人と話し合っている」の項目において、同一集団の推移をみると増加傾向にある。一方で、【39】、【40】「勉強中にスマホなどで、通信アプリや動画アプリを使うことがある」という項目においては、同一集団の推移をみると増加傾向が見られることから、児童生徒が自室で学習する際、スマートフォンの使い方について保護者の目が届いていない可能性が考えられる。

□ 指導改善の方策

○ 児童生徒による主体的な「スマホ利用のルール」づくり

各学級において、「たく生き授業プラン集」を活用して、一人一人がスマホ利用のマイ・ルールを考えたり、児童会や生徒会を中心に、各校の「スマホ利用のルールづくり」に取り組んだりするなど、児童生徒が主体的にルールを作ることで、自己管理能力・自制心を持ってスマホ等を使用する習慣を身に付けさせたい。さらに、そうしたルールを小・中学校で共有することで、小中で連携してスマホの利用について考える契機になるものとする。

○ 学校における「ながらスマホ」に対する指導と家庭・地域への呼び掛け

ルールの作成において、学校において家庭学習中の「ながらスマホ」についての指導を行うことも大切である。これまでの東北大学との共同研究により、勉強中のアプリ使用数が多くなると学習の成果が表れないことが明らかになっている。勉強中のアプリ使用と学力との関係について、「たく生き」の授業等を活用し、児童生徒自身に気付かせ、ルールづくりに生かすようにすることが必要である。このことについて、学校だよりや学級通信等を通して、保護者や地域に周知したりするなど、学習中のスマホ利用を控えるよう協力を求めたい。

☆ ご家庭では☆

学習中にスマホを利用していると答えた児童生徒の割合が年々増加している現状が見られます。ルールを大人側から強制的に与えるのではなく、「午後 10 時以降はスマホを自室に持ち込まない」「使用は 1 時間以内とする」「充電器は家族の目が届く部屋に置く」など、自ら使用時間や使用方法のルールづくりの必要性に気付かせ、児童生徒がスマートフォンと適切な距離を保つようにさせることが大切です。また、SNS の利用についても、保護者がいつでも把握できるような環境を作っておくことで、SNS トラブルからお子さんを守ることに繋がります。